

2019
講義要綱
SYLLABUS

北翔大学大学院
GRADUATE SCHOOL, HOKUSHO UNIVERSITY

2019年度 北翔大学大学院 学事日程

月	火	水	木	金	土	日	備考
4/1	4/2 在学オリエンテーション	4/3 入学式	4/4 オリエンテーション	4/5 オリエンテーション	4/6	4/7	
4/8 ①	4/9 ①	4/10 ①	4/11 ①	4/12 ①	4/13	4/14	
4/15 ②	4/16 ②	4/17 ②	4/18 ②	4/19 ②	4/20	4/21	
4/22 ③	4/23 ③	4/24 ③	4/25 ③	4/26 ③	4/27	4/28	
4/29 昭和の日	4/30 休日	5/1 祝日	5/2 休日	5/3 憲法記念日	5/4 みどりの日	5/5 こどもの日	教育学科養護教諭コース3年次 養護実習：4/8～4/26 こども学科2年次 教育実習：5/13～5/31
5/6 振替休日④	5/7 ④	5/8 ④	5/9 ④	5/10 ④	5/11	5/12	
5/13 ⑤	5/14 ⑤	5/15 ⑤	5/16 ⑤	5/17 ⑤	5/18	5/19	
5/20 ⑥	5/21 ⑥	5/22 ⑥	5/23 ⑥	5/24 ⑥	5/25	5/26	
5/27 ⑦	5/28 ⑦	5/29 ⑦	5/30 ⑦	5/31 ⑦	6/1	6/2	
6/3 ⑧	6/4 ⑧	6/5 ⑧	6/6 ⑧	6/7 ⑧	6/8	6/9	
6/10 ⑨	6/11 ⑨	6/12 ⑨	6/13 ⑨	6/14 ⑨	6/15	6/16	
6/17 ⑩	6/18 ⑩	6/19 ⑩	6/20 ⑩	6/21 ⑩	6/22	6/23	健康福祉学科(介護)4年次 訪問介護実習：6/18～6/28
6/24 ⑪	6/25 ⑪	6/26 ⑪	6/27 ⑪	6/28 ⑪	6/29	6/30	健康福祉学科(介護)2年次 介護基礎実習：6/26～28
7/1 ⑫	7/2 ⑫	7/3 ⑫	7/4 ⑫	7/5 ⑫	7/6	7/7	教育学科養護教諭コース2年次 看護学臨床実習：7月～9月
7/8 ⑬	7/9 ⑬	7/10 ⑬	7/11 ⑬	7/12 ⑬	7/13	7/14	
7/15 海の日⑭	7/16 ⑭	7/17 ⑭	7/18 ⑭	7/19 ⑭	7/20	7/21	
7/22 ⑮	7/23 ⑮	7/24 ⑮	7/25 ⑮	7/26 ⑮	7/27	7/28	
7/29 補講・試験日(月)	7/30 補講・試験日(火)	7/31 補講・試験日(水)	8/1 補講・試験日(木)	8/2 補講・試験日(金)	8/3	8/4	こども学科2年次 保育実習(保育所)：8月～9月 心理カウンセリング学科4年次 精神保健福祉援助実習：8月～9月
8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11 山の日	
8/12 振替休日	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	
8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	教育学科4年次 保育実習Ⅱ又は保育 実習Ⅲ：8/19～8/31
8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	教育学科3年次 教育実習Ⅰ(幼・小)： 幼稚園8/19～9/6 小学校8/19～9/13
9/2	9/3	9/4	9/5 創立記念日	9/6 5/6の振替休日	9/7	9/8	
9/9	9/10	9/11	9/12	9/13	9/14	9/15	健康福祉学科(介護)3年次 介護実習Ⅱ：8/19～9/27
9/16 敬老の日	9/17 7/15の振替休日	9/18	9/19	9/20	9/21	9/22	健康福祉(他)3年次・ 健康福祉(介)4年次 相談援助実習：8月～9月
9/23 秋分の日	9/24	9/25	9/26 オリエンテーション	9/27 大学祭準備	9/28 大学祭	9/29	
9/30 ① 前学期学位記授与式	10/1 ①	10/2 ①	10/3 ①	10/4 ①	10/5	10/6	
10/7 ②	10/8 ②	10/9 ②	10/10 ②	10/11 ②	10/12	10/13	
10/14 体育の日	10/15 ③	10/16 ③	10/17 ③	10/18 ③	10/19	10/20	こども学科2年次 保育実習(施設)：10月～12月
10/21 ③	10/22 祝日	10/23 ④	10/24 ④	10/25 ④	10/26	10/27	
10/28 ④	10/29 ④	10/30 ⑤	10/31 ⑤	11/1 ⑤	11/2	11/3 文化の日	
11/4 振替休日⑤	11/5 ⑤	11/6 ⑥	11/7 ⑥	11/8 ⑥	11/9	11/10	
11/11 ⑥	11/12 ⑥	11/13 ⑦	11/14 ⑦	11/15 ⑦	11/16	11/17	
11/18 ⑦	11/19 ⑦	11/20 ⑧	11/21 ⑧	11/22 ⑧	11/23 勤労感謝の日	11/24	
11/25 ⑧	11/26 ⑧	11/27 ⑨	11/28 ⑨	11/29 ⑨	11/30	12/1	
12/2 ⑨	12/3 ⑨	12/4 ⑩	12/5 ⑩	12/6 ⑩	12/7	12/8	
12/9 ⑩	12/10 ⑩	12/11 ⑪	12/12 ⑪	12/13 ⑪	12/14	12/15	
12/16 ⑪	12/17 ⑪	12/18 ⑫	12/19 ⑫	12/20 ⑫	12/21	12/22	
12/23 ⑫	12/24 ⑫	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	
12/30	12/31	1/1 元旦	1/2	1/3	1/4	1/5	
1/6 ⑬	1/7 ⑬	1/8 ⑬	1/9 ⑬	1/10 ⑬	1/11	1/12	
1/13 成人の日	1/14 11/4の振替休日	1/15 ⑭	1/16 ⑭	1/17 ⑭	1/18	1/19	
1/20 ⑭	1/21 ⑭	1/22 ⑮	1/23 ⑮	1/24 ⑮	1/25	1/26	
1/27 ⑮	1/28 ⑮	1/29 補講・試験日(水)	1/30 補講・試験日(木)	1/31 補講・試験日(金)	2/1	2/2	心理カウンセリング学科3年次 精神保健福祉援助実習：2月～3月
2/3 補講・試験日(月)	2/4 補講・試験日(火)	2/5	2/6	2/7	2/8	2/9	
2/10	2/11 建国記念の日	2/12	2/13	2/14	2/15	2/16	教育学科3年次 保育実習Ⅰ(保育所)：2/10～2/22
2/17	2/18	2/19	2/20	2/21	2/22	2/23 (天皇誕生日)	健康福祉学科(介護)2年次 介護実習Ⅰ：2/17～3/13
2/24 振替休日	2/25	2/26	2/27	2/28	2/29	3/1	
3/2	3/3	3/4	3/5	3/6	3/7	3/8	教育学科3年次 保育実習Ⅰ(施設)：3/2～3/14
3/9	3/10	3/11	3/12	3/13	3/14	3/15	
3/16	3/17	3/18 学位記授与式	3/19	3/20 春分の日	3/21	3/22	
3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/28	3/29	
3/30	3/31						

講義要綱 SYLLABUS の利用にあたって

この冊子は、2019年度に開講される授業科目の概要が記載されています。

授業の概要や到達目標をよく確認して授業を選択する参考にしてください。シラバスには、授業の担当教員名や、単位数等の他、次のような事項が記載されています。シラバスに記載された内容をよく理解し、授業に臨んでください。

- ・ 授業のねらい
- ・ 到達目標
- ・ 授業計画
- ・ 準備学習の内容（事前・事後の学習）
- ・ 使用するテキスト（教科書）や、参考書
- ・ 成績評価の方法（どのような基準で評価が決まるのか）
- ・ 質問への対応（連絡先など）
- ・ その他（履修に当たっての特に注意すべき事項が記載されています）

《学習形態》

「授業の計画」各回の右欄に書かれている記号は学習形態を表し、授業の進め方、指導方法を表しています。

学習形態の用語説明

記号	学習形態	概要説明
A	講義	
B	演習	
C	実験	
D	実習	
E	実技	
F	プレゼンテーション	学生が、指示されたテーマや課題について、グループもしくは単独で調査・学習・実習等を行い、そのことについて他の受講生や教員等聴衆の前で発表する学習方法である。発表形式は、パワーポイントなどの情報機器を活用したものやポスターセッションなど様々である。発表後は、聴衆からの質疑に応答する。〇〇発表会、〇〇報告会等を含む。
G	レポートライティング	与えられたテーマや課題について調査や実験等を行い、調べた事実やデータを分析して、その過程と結果・考察などを文書にまとめる。あるいは、授業で学習したことを自分の言葉でまとめたり、自分の経験したことや体験したことなどについて、感じたことを理由とともにまとめるなど、知識や経験を自分の力で文書で表現する学習方法である。
H	グループワーク	教員から与えられた課題に対して、小グループ（3人から6人程度が一般的）内で共同作業やコミュニケーションをとりながら学修を進めていく協同学習である。コミュニケーション能力、メンバーが役割を分担した上で相互に協力・協働して課題に取り組む姿勢、自分の意見を主張する力と他人の意見を受け入れる力、決められた時間内に課題を解決して答えを出す力などを養成し、学生が社会に出てから活動するために必要な力を身につける。

I	ディベート	ある公的な主題について異なる立場（肯定側と否定側）に分かれ議論することを通して、第三者を客観的な証拠に基づいて説得するコミュニケーション形態（討論をする形式）である。 ディベートを通して学生の思考が活性化され、自分の意見や問題意識を持ったり、より論理的な考え方ができるようになるといった効果が期待される。
J	事例研究	ある事例について調査・研究し、問題の所在・原因を究明し、どのように対処するか解決策を見出す学習活動である。指導者は、学生の個別または集団研究に対して、研究の場を設定し、具体的な助言をしたり、事例を紹介したり、研究をコーディネートしたりして、学生の研究を導く立場で関わる。
K	ワークシート	授業前あるいは授業中に、学習の課題や問題等を提示した用紙を用い、調べたことや理解したことを確認し、理解の深化を促す学習方法である。また、講義の内容を書き込めるように準備された用紙等で理解の確認を行ったり、ワークシートに記入された個々の考えをもとに、ペアやグループワークで話し合い、学習内容を共有することもある。
L	ふり返り	授業の途中や終了時に、理解したことや分からなかったこと等について確認を行い、理解の促進を図る学習方法である。確認の方法としては、振り返りシート等の記入、ペア・グループワークによる意見の共有などがある。
M	フィールドワーク	社会調査における情報収集技法の一つである。研究者が直接現場へ出かけ一定期間滞在し、人々の生活に密着しながら出来事を観察・記述し、その空間の社会的構造をリアルに分析しようとするものである。 アクティブ・ラーニングの視点から、本学での「フィールドワーク」とは教員が提示したテーマや課題等について、学生が直接現場へ出かけ実地調査や研究等を通して、より深く分析し課題解決に向かうことをねらいとした学習形態である。
N	ロールプレイ	現実にかかる場面を想定して、参加者がそれぞれに与えられた役割を演じ（ロールプレイ）、疑似体験（シミュレート）をする学習方法である。技術・技能の修得や、現実的なケースにおける多面的な見方、態度・姿勢の涵養、他人の立場への理解などを促進する際に効果的である。

教育課程表

人間福祉学専攻 専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数		教員名	展開他	免許・資格	ページ
		1年次					
		前	後				
人間福祉学領域							
人間福祉学特論	講義	②		今井博康 尾形良子 梶晴美 黒澤直子 佐々木浩子 佐藤克之 大宮司信 吉田修大			1
地域創生特論	講義	2		佐藤克之	隔年開講 集中講義		2
人間福祉学研究法Ⅰ	講義	2		森下義亜	集中講義		3
人間福祉学研究法Ⅱ	講義		2	森下義亜	集中講義		4
社会福祉学領域							
ソーシャルワーク特論	講義	2		黒澤直子	集中講義		5
高齢者福祉特論	講義	2		吉田修大	集中講義		6
障害福祉特論	講義		2	近藤尚也	集中講義		7
医療福祉特論	講義		2	黒澤直子	集中講義		8
スーパービジョン特論	講義		2	今井博康	集中講義		9
介護福祉学領域							
介護福祉特論	講義		2	梶晴美	集中講義		10
住生活学特論	講義		2	佐藤克之	集中講義		11
福祉環境特論	講義		2	佐藤克之	集中講義		12
社会福祉学・介護福祉学共通領域							
人間福祉実践実習指導	講義	←2→		吉田修大 今井博康 梶晴美	集中講義		13
人間福祉実践実習	実習	←2→		吉田修大 今井博康 梶晴美	集中講義		14
健康福祉学領域							
健康福祉特論	講義		2	上田泉 坂上真理 古名丈人	集中講義		15
健康科学特論	講義		2	佐々木浩子			16
保健医学特論	講義	2		大宮司信	隔年開講 集中講義		17
心理学領域							
基礎心理学特論	講義	2		田辺毅彦	集中講義		18

人間福祉学専攻 専門科目

○単位は必修

科目名	授業形態	年次・単位数		教員名	展開他	免許・資格	ページ
		1年次					
		前	後				
研究指導							
人間福祉特別研究Ⅰ	演習	②		担当教員	集中講義		19
人間福祉特別研究Ⅱ	演習		②	担当教員	集中講義		20

臨床心理学専攻 専門科目

科目名	授業形態	年次・単位数		教員名	展開他	免許・資格	ページ
		1年次					
		前	後				
臨床心理学領域							
臨床心理学特論Ⅰ	講義	②		風間雅江		[臨]臨床心理士_必修	21
				澤 聡一			
臨床心理学特論Ⅱ	講義		②	澤 聡一		[臨]臨床心理士_必修	22
				風間雅江			
臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	講義	②		澤 聡一		[臨]臨床心理士_必修、公認心理師_必修	23
				飯田昭人			
臨床心理面接特論Ⅱ	講義		②	新川貴紀		[臨]臨床心理士_必修	24
司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	講義	2		龍島秀広		[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修	25
精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	講義	2		武藤福保	集中講義	[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修	26
心身医学特論	講義		2	大宮司 信		[臨]臨床心理士_選必	27
障害者心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	講義	2		風間雅江		[臨]臨床心理士_選必、公認心理師_必修	28
コミュニティ心理学特論	講義	2		小坂守孝	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	29
産業・労働分野に関する理論と支援の展開	講義		2	小坂守孝		[臨]公認心理師_必修	30
心の健康教育に関する理論と実践	講義		2	澤 聡一		[臨]公認心理師_必修	31
基礎心理学領域							
心理学研究法特論	講義	2		風間雅江		[臨]臨床心理士_選必	32
				佐藤至英			
生理心理学特論	講義	2		田村卓哉	隔年開講	[臨]臨床心理士_選必	33
発達心理学特論	講義	2		川俣智路		[臨]臨床心理士_選必	34
演習							
臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	演習		②	新川貴紀		[臨]臨床心理士_必修、公認心理師_必修	35
				澤 聡一			
臨床心理査定演習Ⅱ	演習	②		入江智也	一部集中講義	[臨]臨床心理士_必修	36
				飯田昭人			

人間福祉学研究科
人間福祉学専攻
1年次

科目名	人間福祉学特論				授業形態	講義	単位数	2
教員名	今井 博康、尾形 良子、梶 晴美、黒澤 直子、佐々木 浩子、佐藤 克之、大宮司 信、吉田 修大							
授業の目的	ねらい	人間福祉にかかわるさまざまな分野における現状と課題等について理解し、視野を広げ、専門的知見を深める。さらに、研究計画検討会や関係学会への参加を通して、研究法や調査の枠組みを整理し、自らの研究テーマとその調査法、研究法について検討する。						
	到達目標	(1)人間福祉のさまざまな分野に関心を持ち、現代社会の問題が理解できる。 (2)自らの探求心を養い、能動的に文献を読むことで、さらに知見を深めることができる。						
授業の計画	第1回	【テーマ】講義のガイダンス① 【計画内容】講義の概略を説明する。研究計画検討会及び関係学会への参加等について説明する。(専攻主任) 【準備学習の内容】シラバスを読んでおく。						A
	第2回	【テーマ】大学院における研究とは何か① 【計画内容】過去の本専攻における修士論文や研究成果を概観し、調査及び研究法の枠組みを整理する。(専攻主任) 【準備学習の内容】自らの研究テーマや今後の方向性について整理しておく。						A、H
	第3回	【テーマ】大学院における研究とは何か② 【計画内容】過去の本専攻における修士論文や研究成果を概観し、自らの研究テーマとその調査及び研究法について検討する。(専攻主任) 【準備学習の内容】自らの研究テーマや今後の方向性について整理しておく。						B、H
	第4回	【テーマ】障がい者を取り巻く社会の現状と課題 【計画内容】障がい者の生活支援をするにあたり、特に身体障がい、知的障がいの分野における社会の現状と課題を解説する。(梶晴美) 【準備学習の内容】障がい福祉分野に関する基礎学習を積み、基礎的な専門用語の意味を理解しておく。						A、H
	第5回	【テーマ】精神医学からみた障がい 【計画内容】障がい、特に精神の障がいに関する精神医学の視点からの考え方について考察する。(大宮司信) 【準備学習の内容】精神医学分野に関する基礎学習を積み、基礎的な専門用語の意味を理解しておく。						A、H
	第6回	【テーマ】精神障害者を取り巻く社会の現状と課題 【計画内容】精神保健福祉分野における現代社会の問題や最近の研究を解説する。(今井博康) 【準備学習の内容】精神保健福祉分野に関する基礎学習を積み、基礎的な専門用語の意味を理解しておく。						A、H
	第7回	【テーマ】中高年齢者の体力と健康 【計画内容】中高年齢者のQOLを考える上で重要な、体力、身体的特徴と健康について現状と課題を解説する。(佐々木浩子) 【準備学習の内容】中高年齢者の体力と健康に関する基礎学習を積み、基礎的な専門用語の意味を理解しておく。						A、H
	第8回	【テーマ】修士論文中間発表会の聴講 【計画内容】修士論文中間発表会を聴講する。(全専任教員) 【準備学習の内容】自分の研究計画を整理しておく。						J
	第9回	【テーマ】研究計画検討会① 【計画内容】中間発表会の聴講を踏まえ、自らの研究計画を再考する。悩みや疑問を解消し、順調に計画が立案できるよう、必要な助言を行う。(全専任教員) 【準備学習の内容】先行研究レビュー、研究目的、方法を整理しておく。						F
	第10回	【テーマ】研究計画検討会② 【計画内容】中間発表会の聴講を踏まえ、自らの研究計画を再考する。悩みや疑問を解消し、順調に計画が立案できるよう、必要な助言を行う。(全専任教員) 【準備学習の内容】先行研究レビュー、研究目的、方法を整理しておく。						F
	第11回	【テーマ】福祉環境 【計画内容】北海道の福祉のまちづくり条例に基づく公共的施設・活動・福祉用具の優良事例について解説する。(佐藤克之) 【準備学習の内容】北海道のホームページで福祉のまちづくりについて学習しておく。						A、H
	第12回	【テーマ】地域福祉の課題と展望 【計画内容】地域福祉の分野における現代社会の問題や最近の研究を解説する。(尾形良子) 【準備学習の内容】地域福祉分野に関する基礎学習を積み、基礎的な専門用語の意味を理解しておく。						A、H
	第13回	【テーマ】高齢者福祉の課題と展望 【計画内容】高齢者福祉の分野における現代社会の問題や最近の研究を解説する。(吉田修大) 【準備学習の内容】高齢者福祉分野に関する基礎学習を積み、基礎的な専門用語の意味を理解しておく。						A、H
	第14回	【テーマ】各自の研究に役立つ関係学会への参加 【計画内容】各自の修士論文作成に役立つ関係学会へ参加し講演等を聴講する。(外部講師) 【準備学習の内容】テーマに関する事前学習を行い、基礎用語や基礎知識を確認しておく。						A、G
	第15回	【テーマ】まとめ 【計画内容】各回のテーマについて、各自の学びと得られた知見について確認し、レポートする。(専攻主任) 【準備学習の内容】これまでの講義を復習し、レポートにまとめておく。						G、H
テキスト	講義で提示します。必要に応じてプリントを配付します。							
参考書	講義で提示します							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分			50%		50%		
補足								
質問への対応	講義内容については各回の担当者へ。それ以外は専攻主任へ。							
資格								
その他	第14回の関係学会および日程等は、主査となる担当教員と検討のこと。 課題に対しては各講義のなかで内容についての検討を行います。							

科目名	地域創生特論				授業形態	講義	単位数	2	
教員名	佐藤 克之								
授業の目的	ねらい	2014年12月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、その中で、我が国の直面する人口急減・超高齢化という大きな課題に対し、国が一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指している。その後、2016年の改訂では、国全体の少子化対策に加えて、地方の取組を主力とする「地域アプローチ」の重要性が認識された対策が求められている。この講義では、これらの課題の解決に向けた対策について、多様な視点から国・都道府県・市町村の事例について調査・研究を行い、その成果を各自が選定したテーマでポスターとして発表する。							
	到達目標	(1)「地域創生」に関する国の制度・政策についての資料収集・分析。 (2)「地域創生」に関する都道府県の制度・政策についての資料収集・分析。 (3)「地域創生」に関する市町村の制度・政策についての資料収集・分析。							
授業の計画	第1回	【テーマ】「オリエンテーション」① 【計画内容】 地域創生特論のオリエンテーションとして講義展開・講義内容・予習の方法・講義の評価方法・テキスト・参考資料・質問等について説明する。講義展開では、社会人の学生に配慮し、曜日、時間等の調整を行う。 【準備学習の内容】 シラバスの内容を熟読する。					A		
	第2回	【テーマ】「オリエンテーション」② 【計画内容】 地域創生特論のオリエンテーションとして講義展開・講義内容・予習の方法・講義の評価方法・テキスト・参考資料・質問等について説明する。講義展開では、社会人の学生に配慮し、曜日、時間等の調整を行う。 【準備学習の内容】 シラバスの内容を熟読する。					A		
	第3回	【テーマ】「地域創生」に関する国の制度・政策① 【計画内容】 各自のテーマで収集した「国の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。					A、F、J		
	第4回	【テーマ】「地域創生」に関する国の制度・政策② 【計画内容】 各自のテーマで収集した「国の制度・政策」の情報をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。					A、F、J		
	第5回	【テーマ】「地域創生」に関する国の制度・政策③ 【計画内容】 各自のテーマで収集した「国の制度・政策」の情報をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。					A、F、J		
	第6回	【テーマ】「地域創生」に関する都道府県の制度・政策① 【計画内容】 各自のテーマで収集した「都道府県の制度・政策」の情報をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。					A、F、J		
	第7回	【テーマ】「地域創生」に関する都道府県の制度・政策② 【計画内容】 各自のテーマで収集した「都道府県の制度・政策」の情報をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。					A、F、J		
	第8回	【テーマ】「地域創生」に関する都道府県の制度・政策③ 【計画内容】 各自のテーマで収集した「都道府県の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。					A、F、J		
	第9回	【テーマ】「地域創生」に関する市町村の制度・政策① 【計画内容】 各自のテーマで収集した「市町村の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。					A、F、J		
	第10回	【テーマ】「地域創生」に関する市町村の制度・政策② 【計画内容】 各自のテーマで収集した「市町村の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。					A、F、J		
	第11回	【テーマ】「地域創生」に関する市町村の制度・政策③ 【計画内容】 各自のテーマで収集した「市町村の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がこれまで発表用のデータとして作成した内容をポスターセッションでの研究発表用に「タイトル」・「目的」・「方法」・「結果」・「考察」として、パワーポイントを使用し、10枚にまとめる。					A、F、J		
	第12回	【テーマ】「研究発表」 【計画内容】 各自がこれまで収集した情報を「研究発表」としてパワーポイントなどの情報機器を活用し、まとめるとともに全員が発表を行う。 【準備学習の内容】 各自がこれまで発表用のデータとして作成した内容をポスターセッションでの研究発表用に「タイトル」・「目的」・「方法」・「結果」・「考察」として、パワーポイントなどの情報機器を活用し、10枚にまとめる。					A、F、J		
	第13回	【テーマ】「研究発表・修正」① 【計画内容】 各自が修正した「研究発表・修正」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、ポスターセッションでの研究発表用にまとめ、全員で再度ディスカッションを行い、再度修正する。 【準備学習の内容】 ディスカッションで指摘された内容について資料収集、加筆等、修正し、完成した内容とする。					A、F、J		
	第14回	【テーマ】「研究発表・修正」② 【計画内容】 各自が修正した「研究発表・修正」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、ポスターセッションでの研究発表用にまとめ、全員で再度ディスカッションを行い、再度修正する。 【準備学習の内容】 ディスカッションで指摘された内容について資料収集、加筆等、修正し、完成した内容とする。					A、F、J		
	第15回	【テーマ】「研究発表」ポスターセッション 【計画内容】 講義での成果として、各自がまとめた内容についてポスターセッションを行う。各自、「タイトル」・「目的」・「方法」・「結果」・「考察」についてA3・10枚にまとめプリントアウトを行い、北方圏学術情報センター・ポルト4Fのロビーに掲示する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントを使用し、発表用のデータを作成する。					F		
テキスト	地域創成学会、2010年、『地域創成学Vol. 2』、印刷・北海道リハビリ 地域創成学会、2011年、『地域創成学Vol. 3』、印刷・北海道リハビリ 地域創成学会、2013年、『地域創成学Vol. 4』、印刷・北海道リハビリ								
参考書	適宜紹介します								
成績評価の方法	筆記試験		実技試験		課題評価		作品評価		
	配分				60%		40%		
補足									
質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。								
資格									
その他	大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に基づき、社会人学生への受講形態の配慮を行います。								

科目名	人間福祉学研究法 I				授業形態	講義	単位数	2
教員名	森下 義亜							
授業の目的	ねらい	本集中講義では、社会福祉を社会科学のおよび複眼的に考察することの重要性を確認し、受講生の研究を具体的に形づくることを目指す。そのため、質的調査と量的調査の手法や方法論を学びながら、受講生自身のフィールドにおける実践や応用の可能性を検討する。そして、社会科学のおよび方法論的に根拠ある研究につなげることをねらいとする。						
	到達目標	(1)社会科学の思考を身につける。 (2)現代社会を批判的かつ複眼的に考察できる。 (3)福祉の制度や内容を社会科学的に検討できる。 (4)調査研究の重要項目を理解して応用できる。 (5)調査研究の成果を整理して報告ができる。						
授業の計画	第1回	【テーマ】 研究の目的と意義 【計画内容】 現実を再考し、観察し、考察する手続きとしての研究の目的と意義を確認し、受講生自身の研究計画について議論する。 【準備学習の内容】 テキストの1章を読んでおくこと。研究計画書を準備しておくこと。	A、B					
	第2回	【テーマ】 現場における研究の意味 【計画内容】 現場と研究とがどのように影響し合うのかを考察し、現場の立場に立ちながら研究することの意味を議論する。 【準備学習の内容】 テキストの2章を読んでおくこと。	A、B					
	第3回	【テーマ】 研究レビュー 【計画内容】 研究レビューを行う目的や意義を議論し、受講生自身の研究のためにどのようなレビューが有効かを考察する。 【準備学習の内容】 テキストの3章を読んでおくこと。	A、B					
	第4回	【テーマ】 研究の倫理 【計画内容】 研究の問い、データの収集と処理、分析、報告を含む全過程において必要な倫理の自覚的遵守の重要性を認識する。 【準備学習の内容】 テキストの4章を読んでおくこと。	A、B					
	第5回	【テーマ】 研究課題の設定と手順 【計画内容】 概念の定義、仮説の設定、研究課題の具体化など、実践的な研究設計について考察する。 【準備学習の内容】 テキストの5章を読んでおくこと。	A、B					
	第6回	【テーマ】 仮説の構築と検証 【計画内容】 社会科学の標準的方法としての、科学的方法に基づく仮説構築、命題化、検証方法について学ぶ。 【準備学習の内容】 テキストの6章を読んでおくこと。	A、B					
	第7回	【テーマ】 研究方法の選択 【計画内容】 研究資料の収集と分析のための代表的な方法を学び、それらの特徴を議論する。 【準備学習の内容】 テキストの7章を読んでおくこと。	A、B					
	第8回	【テーマ】 量的調査データの分析 【計画内容】 量的調査データの処理と分析について、具体的な事例を用いて学ぶ。 【準備学習の内容】 テキストの8章を読んでおくこと。	A、B					
	第9回	【テーマ】 質的調査データの分析 【計画内容】 質的調査データの収集と分析について、具体的な事例を用いて学ぶ。 【準備学習の内容】 テキストの9章を読んでおくこと。	A、B					
	第10回	【テーマ】 ミクロレベルの研究事例 【計画内容】 社会福祉の現場が抱える問題の解決方法、およびそれを科学的かつ客観的に証明する方法を考察する。 【準備学習の内容】 テキストの10章を読んでおくこと。	A、B					
	第11回	【テーマ】 メゾレベルの研究事例 【計画内容】 医療や福祉施設などのフィールドでの現象を研究によって描き出すことについて、事例を用いながら議論する。 【準備学習の内容】 テキストの11章を読んでおくこと。	A、B					
	第12回	【テーマ】 計画研究 【計画内容】 地域福祉実践の現実を踏まえた新たな可能性に関連する、計画空間概念について考察する。 【準備学習の内容】 テキストの12章を読んでおくこと。	A、B					
	第13回	【テーマ】 研究と政策 【計画内容】 社会福祉分野で有効な、政策と関連付けられた問題研究について具体例を用いて考察する。 【準備学習の内容】 テキストの13章を読んでおくこと。	A、B					
	第14回	【テーマ】 比較研究 【計画内容】 外国研究や国際比較研究の手法及び課題について議論する。 【準備学習の内容】 テキストの14章を読んでおくこと。	A、B					
	第15回	【テーマ】 総括 【計画内容】 既習内容を全体的に振り返り、受講生自身の研究とどのように接合できるかを検討する。 【準備学習の内容】 既習内容と自分自身の研究がどのように関連付けられるかを考察しておくこと。	A、B					
テキスト	岩田正美(ほか)編、2006年、『社会福祉研究法』、有斐閣、9784641123014 講義や研究に関連する資料も配付することがある。							
参考書	斎藤嘉孝、2010年、『社会福祉調査』、新曜社、9784788511873 小林修一(ほか)編著、2005年、『テキスト社会調査』、梓出版社、9784872622195 田中千枝子(編集代表)、2013年、『社会福祉/介護福祉の質的研究法』、中央法規、9784805838747							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分			35%		30%	35%	
	補足			調査課題の完成度		予習や復習への取り組み	最終報告	
質問への対応	授業前、中、後に随時対応する。またメールでも対応する。							
資格								
その他	第16回に最終課題を評価する予定。 本集中講義の内容と自分自身の調査研究との直接のおよび間接的な関連を常に意識しながら受講すること。受講生の調査研究や講義の進捗に応じて、用いる資料や文献を適宜追加または変更することがある。 課題等に対する講評は、受講生との議論の中で随時行う。							

科目名	人間福祉学研究法Ⅱ		授業形態	講義	単位数	2
教員名	森下 義亜					
授業の目的	<p>ねらい 本集中講義では、現代社会における福祉を社会科学の立場から複眼的に考察することで、受講生の問題意識や問題の位置づけを明確化する。並行して、受講生が調査研究対象とするフィールドにおける実践的な調査研究の視点や方法論を学習する。これによって、受講生が自身の調査研究に具体的かつ複眼的に取り組むための思考方法や手法を身につけることをねらいとする。</p> <p>到達目標 (1)社会科学の思考を身につける。 (2)現代社会を批判的かつ複眼的に考察できる。 (3)福祉の制度や内容を社会科学に検討できる。 (4)調査研究の重要項目を理解して応用できる。 (5)調査研究の成果を整理して報告ができる。</p>					
授業の計画	第1回	<p>【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】本科目の概要についての説明をする。また受講生の研究内容を整理して方向性を見出し、今後の計画を明確化する。 【準備学習の内容】自身の研究計画の内容を整理してレジュメにまとめておくこと。</p>				A、B
	第2回	<p>【テーマ】社会科学の認識論 【計画内容】自分がどのように社会を認識しているかを問い直し、他者との違いについて理解する。 【準備学習の内容】テキストのp.10-p.40を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第3回	<p>【テーマ】社会科学のリサーチ・デザイン(1) 事例研究 【計画内容】ポピュラーなりサーチ・デザインである事例研究の定義や特性を問い直し、またその知見を有益にするための方法や手順について学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.42-p.79の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第4回	<p>【テーマ】社会科学のリサーチ・デザイン(2) 事例研究 【計画内容】前回に続いて、ポピュラーなりサーチ・デザインである事例研究の定義や特性を問い直し、またその知見を有益にするための方法や手順について学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.42-p.79の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第5回	<p>【テーマ】社会科学のリサーチ・デザイン(3) 実験 【計画内容】因果関係を見出す上で優れたリサーチ・デザインである実験の有用性を学ぶ。また他のリサーチ・デザインとも比較し、その特徴を学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.80-p.105を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第6回	<p>【テーマ】社会科学のリサーチ・デザイン(4) 横断調査と縦断調査 【計画内容】時間を線ではなく点としてとらえて調査対象間の差異を明らかにする横断調査、逆に時間経過にともなう変化をつかむための縦断調査の特徴について学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.106-p.136を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第7回	<p>【テーマ】社会科学の手法(1) インタビュー 【計画内容】取材やマーケティング等を含め、身近でも広く用いられるインタビューの方法論的側面やその種類および特徴について知り、学術的研究に活用する方法を学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.142-p.182の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第8回	<p>【テーマ】社会科学の手法(2) インタビュー 【計画内容】前回に続いて、取材やマーケティング等を含め、身近でも広く用いられるインタビューの方法論的側面やその種類および特徴について知り、学術的研究に活用する方法を学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.142-p.182の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第9回	<p>【テーマ】社会科学の手法(3) エスノグラフィー/参与観察 【計画内容】社会科学および社会科学的研究において大きな可能性を有するエスノグラフィー/参与観察について、その位置づけ、メリットやデメリット、また手法について学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.183-p.216の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第10回	<p>【テーマ】社会科学の手法(4) エスノグラフィー/参与観察 【計画内容】前回に続いて、社会科学および社会科学的研究において大きな可能性を有するエスノグラフィー/参与観察について、その位置づけ、メリットやデメリット、また手法について学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.183-p.216の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第11回	<p>【テーマ】社会科学の手法(5) 調査票調査 【計画内容】対象となる集団や事象の全体像をつかむ上で優れた力を発揮する調査票調査の多様な手法を俯瞰し、リサーチ・デザインや手法の比較検討の材料とする。 【準備学習の内容】テキストのp.217-p.249の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第12回	<p>【テーマ】社会科学の手法(6) 調査票調査 【計画内容】前回に続いて、対象となる集団や事象の全体像をつかむ上で優れた力を発揮する調査票調査の多様な手法を俯瞰し、リサーチ・デザインや手法の比較検討の材料とする。 【準備学習の内容】テキストのp.217-p.249の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第13回	<p>【テーマ】社会科学の手法(7) 言説分析 【計画内容】言葉そのものを分析の中心に据える質的調査である言説分析を概観し、多様なアプローチの最大公約数的な共通項をおさえたうえで、比較的ポピュラーなアプローチを学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.250-p.285の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第14回	<p>【テーマ】社会科学の手法(8) 言説分析 【計画内容】前回に続いて、言葉そのものを分析の中心に据える質的調査である言説分析を概観し、多様なアプローチの最大公約数的な共通項をおさえたうえで、比較的ポピュラーなアプローチを学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.250-p.285の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
	第15回	<p>【テーマ】社会科学のルール 【計画内容】研究が倫理的に計画された実施され、適切なかたちで発表されたかという過程が、得られた知見と同様またはより重要であることを学ぶ。 【準備学習の内容】テキストのp.288-p.329の指定箇所を読み、要点を整理しておくこと。</p>				A、B
テキスト	野村康、2017年、『社会科学の考え方』、名古屋大学出版会、9784815808761					
参考書	岸政彦ほか、2016年、『質的データ調査の方法』、有斐閣、9784641150379 畑農鋭矢ほか、2017年、『データ分析をマスターする12のレッスン』、有斐閣、9784641221031					
成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分 補足		35% 調査課題の完成度		30% 予習や復習への取り組み	35% 最終報告
質問への対応	授業前、中、後に随時対応する。またメールでも対応する。					
資格						
その他	第16回に最終課題を評価する予定。 本集中講義の内容と自分自身の調査研究との直接的および間接的な関連を常に意識しながら受講すること。受講生の調査研究や講義の進捗に応じて、用いる資料や文献を適宜追加または変更することがある。 課題等に対する講評は、受講生との議論の中で随時行う。					

科目名	ソーシャルワーク特論		授業形態	講義	単位数	2	
教員名	黒澤 直子						
授業の目的	ねらい	ソーシャルワークは近接領域の様々な理論を援用しつつ、北米を中心に発展を遂げてきた。多様化、複雑化する現代社会において、ソーシャルワークにはそれら社会問題への対応が求められている。本講義では、M. リッチモンドの提唱した理論を振り返り、その後の理論的發展過程を追い、ジェネラリストソーシャルワークに至るプロセスを確認する。またソーシャルワークの科学性について検討をすすめ、「専門的価値」「技術」「知識」に関する理解を深めていく。以上を基礎としながら、今後のソーシャルワークのあり方を推察し、時代の要請とソーシャルワーカーの役割の理解を促進する。					
	到達目標	(1)基礎的文献を基にして、特に個別援助(ケースワーク)の基本的な考え方を深める。 (2)ソーシャルワークの専門性を理解し、実践を展開することができる人材を目指す。 (3)ソーシャルワークに対する客観的な批判力を涵養する。					
授業の計画	第1回	【テーマ】 講義のガイダンス 【計画内容】 講義の紹介をし、15回の講義展開を説明します。 【準備学習の内容】 シラバスの内容を熟読しておくこと。	A				
	第2回	【テーマ】 アメリカにおけるソーシャルワークの歴史とメアリー・リッチモンド 【計画内容】 メアリー・リッチモンドの提唱理論について、それ以前の社会福祉実践等を振り返りつつ整理します。 【準備学習の内容】 事前に紹介する予習課題に取り組むこと。	A				
	第3回	【テーマ】 ケース記録から見るソーシャル・ケースワーク実践 【計画内容】 複数の事例の分析から、その特徴と実践の意味を考えます。 【準備学習の内容】 事前に紹介する予習課題に取り組むこと。	A				
	第4回	【テーマ】 社会関係とソーシャルワーク 【計画内容】 伝統的なソーシャルワークと現在のソーシャルワークの考え方を比較検討します。 【準備学習の内容】 事前に紹介する予習課題に取り組むこと。	A				
	第5回	【テーマ】 個人的かつ意図的な実践活動 【計画内容】 ソーシャルワークの意図的な活動の意味を考えます。 【準備学習の内容】 事前に紹介する予習課題に取り組むこと。	A				
	第6回	【テーマ】 ソーシャルワークの専門職化 【計画内容】 リッチモンドの理論体系化を当時の社会情勢等から理解するとともに、ソーシャルワークへの批判を整理します。 【準備学習の内容】 事前に紹介する予習課題に取り組むこと。	A				
	第7回	【テーマ】 精神医学とソーシャルワーク 【計画内容】 精神分析学に傾倒していく診断学派のプロセスを分析します。 【準備学習の内容】 事前に紹介する予習課題に取り組むこと。	A				
	第8回	【テーマ】 ソーシャルワークの対象属性とソーシャルワーク批判① 【計画内容】 施設収容時代におけるソーシャルワーク実践の実態を確認します。 【準備学習の内容】 事前配付資料、提示文献及び要約を求める。	A、H				
	第9回	【テーマ】 ソーシャルワークの対象属性とソーシャルワーク批判② 【計画内容】 反ソーシャルワーク、脱施設化とソーシャルワークの実態を確認します。 【準備学習の内容】 事前配付資料、提示文献及びその要約を求める。	A、H				
	第10回	【テーマ】 人類思想とソーシャルワーク 【計画内容】 ソーシャルワークが依拠してきた理論とノーマライゼーション原理を比較検討します。 【準備学習の内容】 事前配付資料、提示文献及びその要約を求める。	A、H				
	第11回	【テーマ】 ソーシャルワークの拡がり① 【計画内容】 ソーシャルワークの統合化、エコロジカル視点、システム理論への理解を深めるために、代表的な理論(モデル・アプローチ)について整理します。 【準備学習の内容】 事前配付資料、提示文献及びその要約を求める。	A、H				
	第12回	【テーマ】 ソーシャルワークの拡がり② 【計画内容】 第12回に引き続き、代表的な理論(モデル・アプローチ)について整理します。 【準備学習の内容】 事前配付資料、提示文献及びその要約を求める。	A、H				
	第13回	【テーマ】 今日のソーシャルワークの鍵概念① 【計画内容】 エンパワメント・ストレンクス・ナラティブそれぞれのアプローチの特徴を理解します。 【準備学習の内容】 事前配付資料、提示文献及びその要約を求める。	A、H				
	第14回	【テーマ】 今日のソーシャルワークの鍵概念② 【計画内容】 前回の続き及びEBSとは何かに関する理解を深めます。 【準備学習の内容】 事前配付資料、提示文献及びその要約を求める。	A、H				
	第15回	【テーマ】 「サービスの担い手」「利用者本位」とソーシャルワーク 【計画内容】 国家責任と社会福祉サービス及びその担い手としてのソーシャルワーカーの表現の妥当性を検討します。 【準備学習の内容】 事前配付資料、提示文献及びその要約を求める。	A、H				
テキスト	講義時に説明します						
参考書	講義時に説明します						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			60%		40%	
補足				課題レポート		参加意欲	
質問への対応	講義時に説明します。						
資格							
その他	課題に対しては各講義のなかで内容についての検討を行います。						

科目名	高齢者福祉特論				授業形態	講義	単位数	2	
教員名	吉田 修大								
授業の目的	ねらい	超高齢社会の現状を踏まえ「地域包括ケアシステム」「施設福祉(レジデンシャル・ソーシャルワーク)のあり方」「支援者(社会福祉専門職)の専門性」をキーワードとし、超高齢社会における地域包括ケアと要介護高齢者への支援のあり方について学ぶ。さらに、これからの高齢者支援に不可欠な社会福祉専門職が担う介護予防、認知症予防(認知機能低下の抑制)、介護保険法における地域支援事業や生活支援サービスのあり方、高齢者自身や家族介護者、さらには地域社会における福祉課題についても理解を深める。							
	到達目標	(1)超高齢社会における高齢者福祉の現状と課題が理解できる。 (2)高齢者福祉の問題を把握し、研究や実践に活かすことができるようになる。							
授業の計画	第1回	【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】講義内容について説明し、履修者の本講義への関心内容を確認する。 【準備学習の内容】シラバスの内容を精読しておくこと。					A、B、H		
	第2回	【テーマ】高齢者と家族介護者を取り巻く現状と課題 【計画内容】高齢者の生活構造を理解し、高齢者の生活課題を確認する。また、家族介護者の現状と課題についても理解を深める。 【準備学習の内容】学部レベルの「高齢者福祉論」を復習しておくこと。					A、B、H		
	第3回	【テーマ】高齢者福祉の歴史の変遷 【計画内容】老人福祉法制定以降の高齢者福祉に関連する法制度の歴史の変遷と高齢者への支援のあり方について検証する。 【準備学習の内容】学部レベルの「高齢者福祉論」を復習しておくこと。					A、B、H		
	第4回	【テーマ】施設福祉(レジデンシャル・ソーシャルワーク)のあり方(1) 【計画内容】施設福祉(レジデンシャル・ソーシャルワーク)のあり方について文献講読を行い、ケアワークとソーシャルワークの関連性を検討する。 【準備学習の内容】学部レベルの「高齢者福祉論」を復習しておくこと。					A、B、H		
	第5回	【テーマ】施設福祉(レジデンシャル・ソーシャルワーク)のあり方(2) 【計画内容】施設福祉(レジデンシャル・ソーシャルワーク)のあり方について文献講読を行い、ケアワークとソーシャルワークの関連性を検討する。 【準備学習の内容】前回、配付した文献を精読し、テーマと論点を明確にしたレジュメを作成しておくこと。					A、B、H		
	第6回	【テーマ】施設福祉(レジデンシャル・ソーシャルワーク)のあり方(3) 【計画内容】施設福祉(レジデンシャル・ソーシャルワーク)のあり方について文献講読を行い、ケアワークとソーシャルワークの関連性を検討する。 【準備学習の内容】前回、配付した文献を精読し、復習しておくこと。					A、B、H		
	第7回	【テーマ】地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み(1) 【計画内容】先駆的な事例を踏まえ、地域包括ケアシステムの現状と課題、実践のあり方について理解を深める。 【準備学習の内容】学部レベルの「高齢者福祉論」を復習しておくこと。					A、B、H		
	第8回	【テーマ】地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み(2) 【計画内容】先駆的な事例を踏まえ、地域包括ケアシステムの現状と課題、実践のあり方について理解を深める。 【準備学習の内容】前回、配付した先駆的な事例を精読し、テーマと論点を明確にしたレジュメを作成しておくこと。					A、B、H		
	第9回	【テーマ】地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み(3) 【計画内容】先駆的な事例を踏まえ、地域包括ケアシステムの現状と課題、実践のあり方について理解を深める。 【準備学習の内容】前回、配付した文献を精読し、テーマと論点を明確にしたレジュメを作成しておくこと。					A、B、H		
	第10回	【テーマ】高齢者福祉の担い手(社会福祉専門職)の専門性(1) 【計画内容】社会福祉専門職(社会福祉士、介護福祉士)、介護支援専門員(ケアマネジャー)に求められる専門性と支援を必要とする高齢者と家族介護者への支援のあり方について検討する。 【準備学習の内容】学部レベルの「高齢者福祉論」を復習しておくこと。					A、B、H		
	第11回	【テーマ】高齢者福祉の担い手(社会福祉専門職)の専門性(2) 【計画内容】社会福祉専門職(社会福祉士、介護福祉士)、介護支援専門員(ケアマネジャー)に求められる専門性と支援を必要とする高齢者と家族介護者への支援のあり方について検討する。 【準備学習の内容】前回、配付した文献を精読し、テーマと論点を明確にしたレジュメを作成しておくこと。					A、B、H		
	第12回	【テーマ】高齢者福祉の担い手(社会福祉専門職)の専門性(3) 【計画内容】社会福祉専門職(社会福祉士、介護福祉士)、介護支援専門員(ケアマネジャー)に求められる専門性と支援を必要とする高齢者と家族介護者への支援のあり方について検討する。 【準備学習の内容】前回、配付した文献を精読し、復習しておくこと。					A、B、H		
	第13回	【テーマ】介護予防・認知症予防(認知機能低下の抑制)の現状と課題 【計画内容】地域包括支援センターを中心に展開されている介護予防・認知症予防(認知機能低下の抑制)の現状と課題について理解を深める。 【準備学習の内容】前回、配付した文献を精読し、テーマと論点を明確にしたレジュメを作成しておくこと。					A、B、H		
	第14回	【テーマ】介護保険法における地域支援事業や生活支援サービスのあり方 【計画内容】市町村が展開する地域支援事業や生活支援サービスのあり方について理解を深める。 【準備学習の内容】これまで配付した文献を精読し、ディスカッションしたいテーマと論点を明確にしたレジュメを作成しておくこと。					A、B、H		
	第15回	【テーマ】総括 【計画内容】これまでの講義内容を踏まえ論点を整理し、履修者全員でディスカッションを行い総括を行う。 【準備学習の内容】前回、配付した文献を精読し、テーマと論点を明確にしたレジュメを作成しておくこと。					A、B、H		
テキスト	プリントを使用する								
参考書	講義時に説明する								
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他		
	配分			70%		30%			
補足									
質問への対応	講義時に説明します。								
資格									
その他	課題等に対するフィードバックは、随時、授業内において行います。								

科目名	障害福祉特論		授業形態	講義	単位数	2
教員名	近藤 尚也					
授業の目的	ねらい	障害者及び障害福祉を取り巻く環境は、人権思想の醸成、諸科学の発達、障害者自身の参加、ライフスタイルの変化、経済的・政治的要素といった様々な影響を受けつつ変化を遂げてきている。本講義では障害者の権利に焦点をあてつつ、取り巻く環境や制度、理論から障害福祉の理解を深めるとともに、より具体的な実践に取り組んでいける応用力を身につけていく。				
	到達目標	(1)障害者権利条約について、日本の現状を踏まえた説明ができる。 (2)社会的包摂・社会的排除の観点から障害福祉を分析し、理解できる。 (3)障害福祉について、「権利の主体」の観点から理論的・実践的に理解できる。				
授業の計画	第1回	【テーマ】オリエンテーション・講義ガイダンス 【計画内容】講義の展開方法の説明、担当者の紹介と講義内容についてガイダンスを行う。 【準備学習の内容】受講動機や受講生の興味関心の意見交換を行うので、各自の意見を整理しておくこと。			A	
	第2回	【テーマ】障害者権利条約の基礎的理解 【計画内容】障害者の権利に関する条約について基礎的内容とその現状を考察し理解を深める。 【準備学習の内容】障害者権利条約と日本障害者協議会のパラレルレポートに関する資料を調べておくこと。			A、H	
	第3回	【テーマ】障害者の権利に関する歴史的理解 【計画内容】優生思想に関する歴史を理解し、障害者の権利擁護について検討する。 【準備学習の内容】ナチス・ドイツの「T4作戦」について、文献、映像、インターネット等で調べ整理しておくこと。			A、H	
	第4回	【テーマ】障害者と意思決定支援 【計画内容】イギリスの意思決定能力法(2005年)とベストインタレストについて理解する。 【準備学習の内容】イギリスの意思決定能力法の概要について、文献、インターネット等で調べ整理しておくこと。			A、H	
	第5回	【テーマ】成年後見制度と意思決定 【計画内容】日本の成年後見制度や意思決定支援の現状について「権利」の視点から検討する。 【準備学習の内容】日本の成年後見制度の概要について、文献、インターネット等で調べ整理しておくこと。			A、H	
	第6回	【テーマ】日本の福祉サービスと障害者の生活 【計画内容】障害者の権利を護っていくために、日本の福祉サービス・制度はどのような機能を果たしているのか検討する。 【準備学習の内容】居住地域にある障害福祉サービスや障害者基本計画、障害福祉計画について調べ、整理しておくこと。			A、H	
	第7回	【テーマ】重度障害者の生活 【計画内容】重症心身障害者の生活について、これまでの学びを踏まえ、具体的な生活イメージとその現状を理解する。 【準備学習の内容】参考書や提示する文献を読み、重症心身障害の理解を深めておくこと。			A、H	
	第8回	【テーマ】障害と教育 【計画内容】福祉とは異なる教育的視点から障害者に対する支援のあり方を検討する。 【準備学習の内容】特別支援学校学習指導要領(文部科学省)について読み、整理しておくこと。			A、H	
	第9回	【テーマ】障害と就労 【計画内容】障害者の就労について、企業での事例を参考に、就労支援のあり方について検討する。 【準備学習の内容】雇用事例について、文献やインターネット等で調べ、整理しておくこと。			A、H	
	第10回	【テーマ】障害と余暇 【計画内容】余暇の概念を理解し、障害者における権利としての余暇活動について検討する。 【準備学習の内容】参考書や提示する文献を読み、余暇の概念理解を深めておくこと。			A、H	
	第11回	【テーマ】障害とスポーツ 【計画内容】障害者にとってのスポーツの意味を、運動、健康、社会、余暇といった側面から検討する。 【準備学習の内容】参考書や提示する文献を読み、障害者のスポーツの理解を深めておくこと。			A、H	
	第12回	【テーマ】障害と旅行 【計画内容】障害者の余暇活動における旅行の現状と課題、また意義について検討する。 【準備学習の内容】参考書や提示する文献を読み、余暇と旅行について整理しておくこと。			A、H	
	第13回	【テーマ】自己実現の再考 【計画内容】障害がある人にとっての自己実現あり方について、学習を踏まえつつ検討する。 【準備学習の内容】テキストの1章を読みまともておくこと。			A、H	
	第14回	【テーマ】障害福祉の援助観 【計画内容】障害福祉における援助観について、その変遷を理解し、自らの援助観について検討する。 【準備学習の内容】テキストの2章、3章を読みまともておくこと。			A、H	
	第15回	【テーマ】障害者の生活と社会 【計画内容】権利を意識した中で、障害者の生活と社会との関連について、多角的な視点から検討する。 【準備学習の内容】テキストの4章、5章を読みまともておくこと。合わせてこれまでの学習について振り返り整理しておくこと。			A、H	
テキスト	新井愛子、2010年、『障害者福祉の援助観 自己実現を支える関係性』、筒井書房、9784887206090					
参考書	日本障害者協議会(JD)http://www.nginet.or.jp/jdprp/.2017年、『障害者権利条約のパラレルレポートに関する資料』 高谷清、2011年、『重い障害を生きるということ』、岩波新書、9784004313359 蘭田碩哉、2008年、『余暇の論理』、叢文社、9784794706072					
成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分		50%		50%	
	補足		課題レポート			
質問への対応	原則として講義展開中、講義終了後に質疑を受けます。E-Mail:n-kondo@hoku-iryo-u.ac.jp					
資格						
その他	受講者の研究領域、理解到達度によって内容を若干変更する場合があります。					

科目名	医療福祉特論				授業形態	講義	単位数	2
教員名	黒澤 直子							
授業の目的	ねらい	保健医療分野のソーシャルワークについて理解を深めることを目的とする。多様な背景をもつクライアントとの関わりを具体的に理解するために、保健医療分野におけるソーシャルワークに関わる事例を用いて実践の過程に焦点をあて、考察をすすめる。						
	到達目標	(1)保健医療分野のソーシャルワークについて理解を深める。 (2)ソーシャルワーク実践の過程を具体的に理解する。						
授業の計画	第1回	【テーマ】 オリエンテーション 【計画内容】 講義内容を紹介し、講義展開について説明します。 【準備学習の内容】 シラバスの内容を熟読しておくこと。	A					
	第2回	【テーマ】 保健医療分野のソーシャルワークとは 【計画内容】 保健医療分野のソーシャルワーク実践について理解します。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第3回	【テーマ】 実践のためのアプローチ① 【計画内容】 ソーシャルワーク実践のためのアプローチについて理解します。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第4回	【テーマ】 実践のためのアプローチ② 【計画内容】 ソーシャルワーク実践のためのアプローチについて理解します。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第5回	【テーマ】 事例の理解① 【計画内容】 保健医療分野のソーシャルワークに関わる事例について理解します。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第6回	【テーマ】 事例の理解② 【計画内容】 事例の枠組みについて理解します。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第7回	【テーマ】 事例の理解③ 【計画内容】 事例のなかのクライアントの生活歴や課題について理解します。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第8回	【テーマ】 事例の理解④ 【計画内容】 事例のアセスメントを行い、病気や障害への理解とクライアントとの関係づくりについて理解します。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第9回	【テーマ】 事例の理解⑤ 【計画内容】 事例のアセスメントに基づいた援助方法について考えます。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第10回	【テーマ】 事例の理解⑥ 【計画内容】 事例について援助方法に沿った介入の計画を立てます。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第11回	【テーマ】 事例の理解⑦ 【計画内容】 事例の終結とフォローアップ計画を考えます。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第12回	【テーマ】 事例の理解⑧ 【計画内容】 事例を通してソーシャルワーク実践の評価について学びます。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第13回	【テーマ】 事例の理解⑨ 【計画内容】 事例を通して、保健医療分野のソーシャルワーカーの役割について検討します。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第14回	【テーマ】 事例の理解⑩ 【計画内容】 事例を通して、スーパービジョンの重要性について考えます。 【準備学習の内容】 配付するプリントの課題に取り組むこと。	A、I					
	第15回	【テーマ】 まとめ 【計画内容】 これまでの内容を振り返り、ソーシャルワーク実践の過程について考察します。 【準備学習の内容】 配付したプリントについて理解を深めておくこと。	A、I、L					
テキスト	講義時に説明します							
参考書	講義時に説明します							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分			60%		40%		
	補足			課題レポート		参加意欲		
質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。							
資格								
その他	課題については講義のなかで内容の検討を行います。							

科目名	スーパービジョン特論			授業形態	講義	単位数	2
教員名	今井 博康						
授業の目的	ねらい	今日、社会福祉専門職の成長のためにスーパービジョンは不可欠とされている。一方、実践現場における養成形態は、経験則に基づく直感的な伝達やOn the job Trainingに代表される、組織人として必要とされる知識や技能の獲得が主である。しかし社会構造がこれほど複雑化し多様な価値観や対応が求められるようになると、所属機関を超えて、ソーシャルワーカーとしての価値や倫理の確認が必要となる。そこで本講義では、スーパービジョンの発展の歴史と今日の到達点、及び展開方法学び、将来スーパーバイザーとして後進の指導にあたる人材の養成を目指す。					
	到達目標	(1)スーパービジョンがソーシャルワーカーに及ぼす影響を及ぼすかを理解できる。 (2)スーパービジョンの有用性とともにもその限界、ならびに陥りやすい過ちを理解できる。 (3)スーパーバイザーとしての経験に基づき、その立場の理解ができる。 (4)スーパーバイザーとしての基本的な姿勢を示すことができる。					
授業の計画	第1回	【テーマ】スーパービジョン特論の概要及びオリエンテーション 【計画内容】ソーシャルワークにおいてなぜスーパービジョンが必要であるかについて解説します。また、展開方法について説明します。 【準備学習の内容】あらかじめ提示した文献、資料を熟読しておくこと。				A	
	第2回	【テーマ】スーパービジョンの歴史 【計画内容】かつてCOSではどのような指導が行われてきたか、その後スーパービジョンはどのように発展してきたかについて解説します。戦後わが国に導入されたスーパービジョンがどのような形で発展してきたかについて理解を深めます。 【準備学習の内容】あらかじめ提示した文献、資料を熟読しておくこと。				A	
	第3回	【テーマ】スーパービジョン体験を振り返る① 【計画内容】自らが受けた現任教育、あるいは実習教育を振り返り、それが今どのように生かされているかについて検討します。 【準備学習の内容】自分の経験を基に考察を行ったレポートを作成しておくこと。				A、B	
	第4回	【テーマ】スーパービジョン体験を振り返る② 【計画内容】自らが受けた現任教育、あるいは実習教育を振り返り、それが今どのように生かされているかについて検討します。 【準備学習の内容】自分の経験を基に考察を行ったレポートを作成しておくこと。				A、B	
	第5回	【テーマ】後進や学生の指導経験を振り返る① 【計画内容】実習指導者として、または同僚・後輩への助言者等として、どのような対応をしてきたかについて、これまでの経験を整理します。 【準備学習の内容】自分の経験に基づき考察したレポートを作成しておくこと。				A、B	
	第6回	【テーマ】後進や学生の指導経験を振り返る② 【計画内容】実習指導者として、または同僚・後輩への助言者等として、どのような対応をしてきたかについて、これまでの経験を整理します。 【準備学習の内容】自分の経験に基づき考察したレポートを作成しておくこと。				A、B	
	第7回	【テーマ】スーパービジョンの基礎①(機能について) 【計画内容】スーパービジョンの機能及び構造について講義を行い、その基本的理解をすすめます。 【準備学習の内容】あらかじめ提示した文献、資料を熟読しておくこと。				A	
	第8回	【テーマ】スーパービジョンの基礎②(契約と展開方法について) 【計画内容】スーパービジョンの契約、及びその後の展開方法について例を用いながら解説します。 【準備学習の内容】あらかじめ提示した文献、資料を熟読しておくこと。				A	
	第9回	【テーマ】スーパービジョンの基礎③(契約と展開方法について) 【計画内容】再び、スーパービジョンの契約及び展開方法について整理し、さらに理解を深めます。 【準備学習の内容】前回講義、提示した資料等を熟読しておくこと。				A	
	第10回	【テーマ】スーパービジョンの基礎④(展開過程と相互評価) 【計画内容】スーパービジョンの展開、ならびにスーパーバイザーとスーパーバイジーとの相互評価の重要性とその方法について解説します。 【準備学習の内容】前回講義、提示した資料等を熟読しておくこと。				A、B	
	第11回	【テーマ】スーパービジョンの基礎⑤(展開過程と相互評価、終結について) 【計画内容】スーパーバイザーとスーパーバイジーの相互評価、ならびに終結(契約途中解除を含む)について解説します。 【準備学習の内容】第8回～第10回までに配付した資料、ならびに文献を熟読しておくこと。				A、B	
	第12回	【テーマ】スーパーバイザーとしての経験① 【計画内容】現在、または過去に担当したクライアントの事例を基に、試行的にスーパーバイザーとしての体験をします。 【準備学習の内容】事例提出に必要なルール(本人の同意・守秘義務)を確認し、レポートを作成しておくこと。				H、J	
	第13回	【テーマ】スーパーバイザーとしての経験② 【計画内容】現在、または過去に担当したクライアントの事例を基に、試行的にスーパーバイザーとしての体験をします。 【準備学習の内容】事例提出に必要なルール(本人の同意・守秘義務)を確認し、レポートを作成しておくこと。				H、J	
	第14回	【テーマ】スーパーバイザーとしての態度 【計画内容】架空事例を用いて、教員がスーパーバイジー役を務め、スーパーバイザー体験をします。支持的な態度に関する経験を通じて、理解を深めます。 【準備学習の内容】これまでの配付資料を復習し、特にスーパーバイザーとしての基本態度を押さえておくこと。				B、N	
	第15回	【テーマ】スーパービジョンに関するまとめと整理 【計画内容】全講義、演習の経験を整理して、今後の後輩育成に何が必要かを検討します。 【準備学習の内容】全ての資料を復習し、今後どういった後輩育成を展開しようと思うかレポートに整理しておくこと。				B、L	
テキスト	講義時に説明する。						
参考書	柏木昭ほか、2012年、『人間福祉スーパービジョン』、聖学院大学出版会 村田久行、2010年、『援助者の援助』、川島出版 福山和女、2005年、『ソーシャルワークのスーパービジョン』、ミネルヴァ書房						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分		20%	40%		40%	
質問への対応	講義内での積極的な質問に期待する。または研究室の訪室による質疑も受け付ける。						
資格							
その他	スーパービジョンが事例検討や事例研究等と異なる点に留意が必要。						

科目名	介護福祉特論		授業形態	講義	単位数	2
教員名	梶 晴美					
授業の目的	<p>ねらい 介護保険制度と支援費制度の導入により、ケアが「サービス」となって久しい。近年の超高齢化社会の進展のなかで介護市場は巨大化してきたが、ケアについては依然としてケアする方の論理で語られがちである。受け手が主体者であるべきケアにおいて、よいケアとは何か、ケアとは何であるべきか。上野千鶴子の『ケアの社会学』の輪読を通して、それらのことを考えていきたい。</p> <p>到達目標 (1)ケアの概念、倫理、本質など、ケアの規範理論について考えることができる。 (2)ケアのニーズと当事者主権について考えることができる。 (3)良いケアとは何かを、ケアされる側の視点で考えることができる。</p>					
授業の計画	第1回	【テーマ】 ガイダンス 「ケアとは何か」 【計画内容】 講義の進め方、注意事項、評価等について説明する。テキストの該当部分を講読し、内容を元に「ケアとは何か」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト購入について、事前に担当者とコンタクトをとっておく。	A、H			
	第2回	【テーマ】 「ケアとは何であるべきか」① 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「ケアとは何か」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第3回	【テーマ】 「ケアとは何であるべきか」② 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「ケアとは何か」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第4回	【テーマ】 「当事者とは誰か」① 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「当事者とは誰か」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第5回	【テーマ】 「当事者とは誰か」② 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「当事者とは誰か」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第6回	【テーマ】 「ケアに根拠はあるか」① 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「ケアの根拠」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第7回	【テーマ】 「ケアに根拠はあるか」② 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「ケアの根拠」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第8回	【テーマ】 「家族介護は『自然』か」① 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「家族介護」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第9回	【テーマ】 「家族介護は『自然』か」② 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「家族介護」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第10回	【テーマ】 「ケアとはどんな労働か」① 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「ケア労働」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第11回	【テーマ】 「ケアとはどんな労働か」② 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「ケア労働」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第12回	【テーマ】 「ケアされるとはどんな経験か」① 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「ケアされること」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第13回	【テーマ】 「ケアされるとはどんな経験か」② 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「ケアされること」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第14回	【テーマ】 「『よいケア』とは何か」① 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「よいケア」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
	第15回	【テーマ】 「『よいケア』とは何か」② 【計画内容】 テキストの該当する章を受講生で分担してレジュメにまとめてくる。講義ではそれを発表し、内容を元に「よいケア」についてディスカッションする。 【準備学習の内容】 テキスト該当章を読み、担当者はレジュメを作成する。	F			
テキスト	上野千鶴子、2011年、『ケアの社会学 当事者主権の福祉社会へ』、太田出版、9784778312411					
参考書	中西正司・上野千鶴子、2003年、『当事者主権』、岩波新書 上野千鶴子ほか、2008年、『ケアその思想と実践シリーズ1～6』、岩波書店					
成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分 補足		50% レジュメ		50%	参加態度・報告内容含む
質問への対応	オフィスアワー(765研)またはE-Mail: hkaji@hokusho-u.ac.jp					
資格						
その他						

科目名	住生活学特論		授業形態	講義	単位数	2	
教員名	佐藤 克之						
授業の目的	ねらい	今日の「住まい」に関する国及び自治体の制度・政策について学ぶ。特に日本では、高齢化が急速に進行し、介護が必要な高齢者や高齢者単身及び高齢者夫婦のみの世帯等が、今後一層増加する。近年の住宅政策においては、平成18年の住生活基本法での高齢者の居住の安定確保に関する法律等の一部を改正する法律(平成23年法律第32号)、平成23年4月28日の高齢者の居住の安定確保に関する法律等の一部を改正する法律の施行、同年7月29日の国土交通省・厚生労働省関係高齢者の居住の安定確保に関する法律施行規則及び高齢者の居住の安定確保に関する法律施行規則等の一部を改正する省令(平成23年国土交通省令第64号)が同年8月12日にそれぞれ公布され、同年10月20日より施行されている。「住まい」は、生活の基盤であり、誰にでも訪れる高齢期を安心して迎え、過ごすことができる環境を整備するためには、高齢期に適した住まいの確保が国民的な課題である。この講義では、これらの課題の解決に向け、多様な視点から調査・研究を行い、その成果を各自が選定したテーマでポスター発表する。					
	到達目標	(1)「住まい」に関する国の制度・政策についての資料収集・分析。 (2)「住まい」に関する都道府県の制度・政策についての資料収集・分析。 (3)「住まい」に関する市町村の制度・政策についての資料収集・分析。					
授業の計画	第1回	【テーマ】「オリエンテーション」① 【計画内容】「住生活学特論」のオリエンテーションとして講義展開・講義内容・予習の方法・講義の評価方法・テキスト・参考資料・質問等について説明する。講義展開では、社会人の学生に配慮し、曜日、時間等の調整を行う。 【準備学習の内容】 シラバスの内容を熟読する。			A		
	第2回	【テーマ】「オリエンテーション」② 【計画内容】 住生活学特論のオリエンテーションとして講義展開・講義内容・予習の方法・講義の評価方法・テキスト・参考資料・質問等について説明する。講義展開では、社会人の学生に配慮し、曜日、時間等の調整を行う。 【準備学習の内容】 シラバスの内容を熟読する。			A		
	第3回	【テーマ】「住まい」に関する国の制度・政策① 【計画内容】 各自のテーマで収集した「国の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。			A、F、J		
	第4回	【テーマ】「住まい」に関する国の制度・政策② 【計画内容】 各自のテーマで収集した「国の制度・政策」の情報をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。			A、F、J		
	第5回	【テーマ】「住まい」に関する国の制度・政策③ 【計画内容】 各自のテーマで収集した「国の制度・政策」の情報をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。			A、F、J		
	第6回	【テーマ】「住まい」に関する都道府県の制度・政策① 【計画内容】 各自のテーマで収集した「都道府県の制度・政策」の情報をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。			A、F、J		
	第7回	【テーマ】「住まい」に関する都道府県の制度・政策② 【計画内容】 各自のテーマで収集した「都道府県の制度・政策」の情報をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。			A、F、J		
	第8回	【テーマ】「住まい」に関する都道府県の制度・政策③ 【計画内容】 各自のテーマで収集した「都道府県の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。			A、F、J		
	第9回	【テーマ】「住まい」に関する市町村の制度・政策① 【計画内容】 各自のテーマで収集した「市町村の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。			A、F、J		
	第10回	【テーマ】「住まい」に関する市町村の制度・政策② 【計画内容】 各自のテーマで収集した「市町村の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントなどの情報機器を活用し、発表用のデータを作成する。			A、F、J		
	第11回	【テーマ】「住まい」に関する市町村の制度・政策③ 【計画内容】 各自のテーマで収集した「市町村の制度・政策」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、全員が発表する。 【準備学習の内容】 各自がこれまで発表用のデータとして作成した内容をポスターセッションでの研究発表用に「タイトル」・「目的」・「方法」・「結果」・「考察」として、パワーポイントを使用し、10枚にまとめる。			A、F、J		
	第12回	【テーマ】「研究発表」 【計画内容】 各自がこれまで収集した情報を「研究発表」としてパワーポイントなどの情報機器を活用し、まとめるとともに全員が発表を行う。 【準備学習の内容】 各自がこれまで発表用のデータとして作成した内容をポスターセッションでの研究発表用に「タイトル」・「目的」・「方法」・「結果」・「考察」として、パワーポイントなどの情報機器を活用し、10枚にまとめる。			A、F、J		
	第13回	【テーマ】「研究発表・修正」① 【計画内容】 各自が修正した「研究発表・修正」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、ポスターセッションでの研究発表用にまとめ、全員で再度ディスカッションを行い、再度修正する。 【準備学習の内容】 ディスカッションで指摘された内容について資料収集、加筆等、修正し、完成した内容とする。			A、F、J		
	第14回	【テーマ】「研究発表・修正」② 【計画内容】 各自が修正した「研究発表・修正」をパワーポイントなどの情報機器を活用し、ポスターセッションでの研究発表用にまとめ、全員で再度ディスカッションを行い、再度修正する。 【準備学習の内容】 ディスカッションで指摘された内容について資料収集、加筆等、修正し、完成した内容とする。			A、F、J		
	第15回	【テーマ】「研究発表」ポスターセッション 【計画内容】 講義での成果として位置づけ、各自がまとめた内容についてポスターセッションを行う。各自、「タイトル」・「目的」・「方法」・「結果」・「考察」についてA3・10枚にまとめプリントアウトを行い、北方圏学術情報センター・ボルト4Fのロビーに掲示する。 【準備学習の内容】 各自がテーマについて資料収集を行い、パワーポイントを使用し、発表用のデータを作成する。			F		
テキスト	地域創成学会、2010年、『地域創成学Vol. 2』、印刷・北海道リハビリ 地域創成学会、2011年、『地域創成学Vol. 3』、印刷・北海道リハビリ 地域創成学会、2013年、『地域創成学Vol. 4』、印刷・北海道リハビリ						
参考書	適宜紹介します						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			60%		40%	
補足							
質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。						
資格							
その他	大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に基づき、社会人学生への受講形態の配慮を行います。						

科目名	福祉環境特論		授業形態	講義	単位数	2	
教員名	佐藤 克之						
授業の目的	ねらい	現在、わが国の取り巻く社会は、少子高齢化の人口構造上の問題、一極集中・過疎化・地方分権・行財政・環境・災害等、地域規模での様々な問題がある。さらに、社会環境・価値観・人権思想等の変化を受け、社会保障・社会福祉の改革が進められている。そのような中、福祉環境特論では、寒冷積雪地の北海道の福祉のまちづくり条例に基づく公共施設・活動・福祉用具の優良実践事例について研究・調査等を実施し、結果の分析と論文作成を行う。					
	到達目標	(1)資料の収集・分析方法の理解。 (2)研究・調査の理解。 (3)結果の分析方法の理解。 (4)論文の作成。					
授業の計画	第1回	【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】講義の紹介、15回の講義計画・テキスト・参考書・成績評価の方法について解説する。 【準備学習の内容】シラバスの内容を熟読する。				A	
	第2回	【テーマ】バリアフリー社会の重要性① 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】バリアフリーの用語について厚生労働省及び国土交通省のホームページから検索する。				A、H、J	
	第3回	【テーマ】バリアフリー社会の重要性② 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】バリアフリーの用語について北海道のホームページから検索する。				A、H、J	
	第4回	【テーマ】バリアフリー社会の重要性③ 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】バリアフリーの用語について市町村のホームページから検索する。				A、H、J	
	第5回	【テーマ】福祉のまちづくり① 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】福祉のまちづくりの用語について厚生労働省及び国土交通省のホームページから検索する。				A、H、J	
	第6回	【テーマ】福祉のまちづくり② 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】福祉のまちづくりの用語について北海道のホームページから検索する。				A、H、J	
	第7回	【テーマ】福祉のまちづくり③ 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】福祉のまちづくりの用語について市町村のホームページから検索する。				A、H、J	
	第8回	【テーマ】北海道福祉のまちづくり条例 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】北海道のホームページで福祉のまちづくり条例について検証する。				A、H、J	
	第9回	【テーマ】札幌市福祉のまちづくり条例 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】札幌市のホームページで福祉のまちづくり条例について検証する。				A、H、J	
	第10回	【テーマ】北海道と札幌市の福祉のまちづくり条例についての比較 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】北海道と札幌市のホームページで福祉のまちづくり条例について比較検証する。				A、H、J	
	第11回	【テーマ】北海道福祉のまちづくり賞受賞事例・公共施設① 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】北海道のホームページで福祉のまちづくり賞優良事例を比較検証する。				A、H、J	
	第12回	【テーマ】北海道福祉のまちづくり賞受賞事例・公共施設② 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】北海道のホームページで福祉のまちづくり賞優良事例を比較検証する。				A、H、J	
	第13回	【テーマ】北海道福祉のまちづくり賞受賞事例・公共施設③ 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】北海道のホームページで福祉のまちづくり賞優良事例を比較検証する。				A、H、J	
	第14回	【テーマ】北海道福祉のまちづくり賞受賞事例・活動部門 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】北海道のホームページで福祉のまちづくり賞優良事例を比較検証する。				A、H、J	
	第15回	【テーマ】北海道福祉のまちづくり賞受賞事例・福祉用具部門 【計画内容】各自が収集した情報を全員が発表し、全員でディスカッションを行い共有の知識とする。毎回、出された課題について情報の収集と、一部プリントの提出を行い、各自が発表用のデータとして作成し、調べた内容について説明する。また、ディスカッションで指摘された内容については、再度情報の収集、加筆・修正し、最終講義で提出用ファイルにまとめる。 【準備学習の内容】北海道のホームページで福祉のまちづくり賞優良事例を比較検証する。				A、H、J	
テキスト	適宜紹介します						
参考書	適宜紹介します						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			60%		40%	
補足							
質問への対応	初回講義時に具体的に説明します。						
資格							
その他	履修者は、指導教員の指示のもと、研究・調査及び実験・中間発表・論文作成等を行います。 大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に基づき、社会人学生への受講形態の配慮を行います。						

科目名	人間福祉実践実習指導		授業形態	講義	単位数	2	
教員名	吉田 修大、今井 博康、梶 晴美						
授業の目的	ねらい	自分の福祉現場での実践を振り返り、学びを深め、社会福祉専門職の支援のあり方を見つめ直す。また、実習の構造やシステムを講義だけではなく実習生という立場から再確認する。さらに、「人間福祉実践実習指導」「人間福祉実践実習」を通じて実習生、教員(養成校)、指導者(実習スーパーバイザー)の三者関係、役割や機能についても理解を深める。また、社会福祉専門職としての専門性の向上を目指す。					
	到達目標	(1)実習のシステムや構造について理解できる。 (2)社会福祉専門職としての専門性を高める。 (3)社会福祉専門職の支援のあり方を見つめ直し、日々の実践に活かすことができる。 (4)実習生(スーパーバイザー)の経験を通じて、将来的には実習指導者(スーパーバイザー)として活躍できる人材を育成する。					
授業の計画	第1回	【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】1年間の人間福祉実践実習開始から終了までのプロセスについて説明する。 【準備学習の内容】シラバスを熟読しておくこと。	A	第16回	【テーマ】記録・実習日誌の作成方法について 【計画内容】実習中に取り組み記録・実習日誌の書き方や取り扱いについて確認する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第2回	【テーマ】実習体験・福祉現場での実践の振り返り① 【計画内容】これまでの実習経験・福祉現場での実践を振り返り、支援のあり方を見つめ直す。 【準備学習の内容】事前に提示された課題に取り組むこと。	A、B、H	第17回	【テーマ】事前訪問の内容と実習計画書(個別課題)の再検討 【計画内容】事前訪問の内容を確認するとともに、実習指導者(スーパーバイザー)から指導・助言をいただいた実習計画書(個別課題)を再検討する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第3回	【テーマ】実習体験・福祉現場での実践の振り返り② 【計画内容】これまでの実習経験・福祉現場での実践を振り返り、支援のあり方を見つめ直す。 【準備学習の内容】事前に提示された課題に取り組むこと。	A、B、H	第18回	【テーマ】事前学習発表会、実習中の諸注意について 【計画内容】取り組んだ事前学習の内容を発表し、学習内容の理解と到達度を確認します。また、実習中の諸注意についても確認する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第4回	【テーマ】実習計画書(実習課題)の作成① 【計画内容】実習で学びたい内容を整理し、実習で取り組みたい課題を明確にする。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第19回	【テーマ】実習体験の振り返り① 【計画内容】実習の体験を振り返り、実習で取り組んだ内容と実習での学びを確認する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第5回	【テーマ】実習計画書の作成② 【計画内容】実習で学びたい内容を整理し、実習で取り組みたい課題を明確にする。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第20回	【テーマ】実習体験の振り返り② 【計画内容】実習中に体験したディレクティブ体験を基に、社会福祉専門職としてより良い実践を行うために必要な価値・倫理について検討する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第6回	【テーマ】事前学習① 【計画内容】実習施設・機関の法的根拠や配置されている他職種を理解を深める。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第21回	【テーマ】実習体験の振り返り③ 【計画内容】実習中に取り組んだケース研究、課題研究を基に、支援計画、支援内容等について再検討する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第7回	【テーマ】事前学習② 【計画内容】実習施設・機関を利用しているクライアントの理解を深める。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第22回	【テーマ】実習の振り返り④ 【計画内容】実習プログラムを基に、実習のねらい、目的、専門職養成教育および実習教育の構造を学ぶ。さらに、実習生(スーパーバイザー)、実習指導者(スーパーバイザー)、養成校・教員の三者関係のあり方についても整理する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第8回	【テーマ】事前学習③ 【計画内容】実習計画書(個別課題)に盛り込む課題を整理し、その内容を深める。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第23回	【テーマ】実習の振り返り⑤ 【計画内容】実習評価表を基に実習生と教員のスーパーバイジョンを行い、実習内容と共に到達度や専門職としての自己理解を深める。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第9回	【テーマ】施設レジデンシャルソーシャルワークの9機能と社会福祉専門職 【計画内容】施設ソーシャルワークの9機能を手掛かりに、社会福祉専門職の役割について学習する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第24回	【テーマ】実習の振り返り⑥ 【計画内容】実習中に達成できなかったことや新たに見出された課題を確認し、事後学習計画を作成する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第10回	【テーマ】実習プログラムの理解① 【計画内容】実習プログラム、実習プログラミング・ワークシートについての理解を深め、実習の各段階における実習のイメージ形成、指導者(実習スーパーバイザー)との関連について学習する。また、実習スーパーバイジョンの役割や構造についても理解を深める。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第25回	【テーマ】実習報告書の作成① 【計画内容】実習報告書の作成の目的やねらいを確認し、作成方法について説明する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第11回	【テーマ】実習プログラムの理解② 【計画内容】実習プログラム、実習プログラミング・ワークシートについての理解を深め、実習の各段階における実習のイメージ形成、指導者(実習スーパーバイザー)との関連について学習する。また、実習スーパーバイジョンの役割や構造についても理解を深める。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第26回	【テーマ】実習報告書の作成② 【計画内容】作成した実習報告書の指導・添削を行う。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第12回	【テーマ】実習計画書(実習課題)の作成① 【計画内容】作成した実習計画書(実習課題)をプレゼンテーションし、実習計画書(実習課題)の検討を行う。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、F	第27回	【テーマ】実習報告書の作成③ 【計画内容】作成した実習報告書の指導・添削を行う。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第13回	【テーマ】実習計画書(実習課題)の作成② 【計画内容】作成した実習計画書(実習課題)をプレゼンテーションし、実習計画書(実習課題)の検討を行う。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、F	第28回	【テーマ】実習報告会の準備① 【計画内容】実習報告会に関するオリエンテーションを行う。報告会の目的や意義、レジュメの作成、プレゼンテーション(報告)の方法やルールについて確認する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第14回	【テーマ】事前訪問、実習計画書(個別課題)、実習内容等の確認 【計画内容】事前訪問時に持参した実習計画書(実習課題)や実習内容を確認し、本実習までに取り組むべき課題や準備すべき内容について確認、整理する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第29回	【テーマ】実習報告会の準備② 【計画内容】実習報告会に関するオリエンテーションを行う。報告会の目的や意義、レジュメの作成、プレゼンテーション(報告)の方法やルールについて確認する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
	第15回	【テーマ】ケース研究・課題研究 【計画内容】実習中に取り組むケース研究、課題研究の取り組み方や留意点について確認する。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	第30回	【テーマ】実習報告会とまとめ 【計画内容】実習報告会を開催し、実習での学びを共有する。また、実習における学びと成果のまとめを行う。 【準備学習の内容】事前に提示した課題に取り組むこと。	A、B、H	
テキスト	講義時に説明する						
参考書	講義時に説明する						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			30%		30%	40%
質問への対応	初回講義時に説明します。						
資格							
その他	本科目は「人間福祉実践実習」と同一年次に履修すること。 課題等に対するフィードバックは、随時、授業内において行う。						

科目名	人間福祉実践実習		授業形態	実習	単位数	2	
教員名	吉田 修大、今井 博康、梶 晴美						
授業の目的	ねらい	本実習では、社会福祉専門職としての専門性や実践的な能力を体得することを目的とする。また、実践場面における振り返りから、客観的に支援者としての自己の理解を深めることとする。さらに、将来的には実践現場において実習生の指導や実習スーパービジョン、実習プログラムの立案等、実習指導者(実習スーパーバイザー)として活躍できる素地を涵養する。					
	到達目標	(1)社会福祉専門職としての専門性を高め、実践現場における他職種との連携、組織運営についてリーダーシップを発揮できるようになる。 (2)実習指導者(実習スーパーバイザー)として、実習プログラムの立案から指導までできることを目指す。					
授業の計画	【計画内容】	<p><実習内容></p> <p>①1週目 実習する施設機関の役割の理解を深める。具体的には実習施設・機関、法人の理念や援助の方針、組織、運営管理、施設・機関で行っている福祉サービス、地域や地域資源の理解と連携のあり方などを学ぶ。</p> <p>②2週目 社会福祉専門職の役割を理解し、業務内容を実践的に学ぶ。具体的には会議の同席、カンファランスへの参加などから理解を深める。</p> <p>③3週目以降 ソーシャルワークおよび介護実践の専門性を理解する。具体的には相談援助場面への同席、介護実践、ケース研究などを通じたニーズ把握や支援計画の立案・実施などから理解を深める。</p> <p><実習指導の内容></p> <p>「人間福祉実践実習指導」の内容を踏まえ、設定した実習計画書(個別課題)が達成できるよう訪問および帰校日指導を通じて学びを深める。具体的な指導内容は、以下に示す。</p> <p>①利用者理解の視点とニーズの把握、支援計画の立案・実施</p> <p>②実習施設・機関の役割と組織、運営管理、経営のあり方</p> <p>③利用者および家族、関係者との支援関係の形成と構築</p> <p>④チームアプローチの視点と他職種連携</p> <p>⑤社会福祉専門職としての実践的な技術、価値・倫理</p> <p>⑥アウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発</p> <p>⑦実習プログラムの沿った実習プログラムの立案</p> <p>⑧実習生(スーパーバイザー)、実習指導者(スーパーバイザー)、養成校・教員の三者関係に基づく実習のあり方と実習スーパービジョン</p>					D
	【その他】						
	【準備学習の内容】	学生の希望する実習内容や分野に応じて、講義時に説明する。					
テキスト	講義時に説明します						
参考書	講義時に説明します						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			30%		30%	40%
補足							
質問への対応	初回講義時に説明します。						
資格							
その他	本科目は「人間福祉実践実習指導」と同一年次に履修すること。 課題等に対するフィードバックは、随時、授業内において行う。						

科目名	健康福祉特論			授業形態	講義	単位数	2
教員名	上田 泉、坂上 真理、古名 丈人						
授業の目的	ねらい	超高齢化社会を迎えた現在、持続的社会的維持の唯一の方略ともいえる“地域包括ケアの概念、地域包括ケアシステム”について理解し、高齢者及び家族への介入方法について学ぶ。また地域包括ケアを支える医療と介護の連携について理解するとともに、地域社会資源のネットワークを構築するための方法について学ぶ。今後より一層、高齢者の社会参加を推進することを通して、元気な高齢者が生活支援の担い手として活躍するなど、高齢者が社会的役割をもつこと、生きがいや介護予防にもつなげる取組が重要となる。地域活動の中では様々な関連職種と関わる必要があり、行政サービスのみならず、NPO、ボランティア、民間企業等の多様な事業主体による重層的な支援体制を構築することが求められている。実践において連携する機会が多い理学療法士、作業療法士、保健師の各々の専門職が展開しているアプローチ方法や視点、専門職としての役割、考え方を学ぶ。その上で保健・医療・福祉専門職が連携・協働していくために望まれることやあり方について検討し、自身の専門職としての役割、考え方を学ぶ。					
	到達目標	(1)地域包括ケアの概念、地域包括ケアシステムについて、高齢者及び家族への介入方法について、地域包括ケアを支える医療と介護の連携について理解する。地域社会資源のネットワークを構築するための方法について理解する。 (2)地域包括ケアシステムは、自助・互助を基盤として5つの柱(医療、介護、予防、住まい、生活支援)から成り立っているが、まず理学療法士がそれぞれのセクションにどうかかわっているかを学習し、その後一般化を図る。 (3)地域包括ケアシステムの中で、作業療法士が展開しているアプローチ方法や視点、専門職としての役割、考え方を学ぶ。 (4)地域実践活動の中で、保健師が展開しているアプローチ方法や視点、専門職としての役割、考え方を学ぶ。 (5)上記をふまえて、保健・医療・福祉専門職が連携・協働していくために望まれること、専門職としてのあり方について学ぶ。					
授業の計画	第1回	【テーマ】超高齢化社会と地域包括ケアシステム 【計画内容】2015-2045、そしてその後の日本を洞察し、地域包括ケアシステムの必要性と機能を学びます。(坂上真理) 【準備学習の内容】各受講生がバックグラウンドとしている専門的知見より、地域包括ケアシステムの役割と機能について発表できるように準備をしてみてください。				A、B	
	第2回	【テーマ】地域包括ケアシステムと作業療法 【計画内容】地域包括ケアシステムにおける職種間の連携・協業に向けて、作業療法の役割や考え方について病期別特徴を含めて学びます。また、前回の準備学習の内容も交えながら、スペシャリスト並びにジェネラリストとしての作業療法士について討議をします。(坂上真理) 【準備学習の内容】講義時に指定した資料を読んで授業に参加してください。				A、B	
	第3回	【テーマ】地域包括ケアシステムにおける生活行為支援論(1) 【計画内容】作業療法士が地域で展開する生活行為向上マネジメントについて、その開発経緯と準拠枠を含めて学びます。(坂上真理) 【準備学習の内容】講義時に指定した資料を読んで授業に参加してください。				A、B	
	第4回	【テーマ】地域包括ケアシステムにおける生活行為支援論(2) 【計画内容】認知症支援に関するテーマについて受講生によるプレゼンテーションと全体討議を行います。(坂上真理) 【準備学習の内容】提示したテーマについてプレゼンテーションとディスカッションの準備をしてください。				A、B	
	第5回	【テーマ】地域包括ケアシステムにおける生活行為支援論(3) 【計画内容】作業療法における社会の健康に関するテーマについて受講生によるプレゼンテーションと全体討議を行います。(坂上真理) 【準備学習の内容】提示したテーマについてプレゼンテーションとディスカッションの準備をしてください。				A、B	
	第6回	【テーマ】地域包括ケアシステム下の理学療法 【計画内容】地域包括ケアシステムの内容と機能を理解し、各セクションにおける理学療法士の関わりを概念的に理解します。(古名丈人) 【準備学習の内容】前回までの復習。				A、B	
	第7回	【テーマ】地域包括ケアシステム下の理学療法実践(1) 【計画内容】地域における理学療法実践例①(古名丈人) 【準備学習の内容】前回までの復習。				A、B	
	第8回	【テーマ】地域包括ケアシステム下の理学療法実践(2) 【計画内容】地域における理学療法実践例②(古名丈人) 【準備学習の内容】前回までの復習。				A、B	
	第9回	【テーマ】地域包括ケアシステム下の理学療法実践(3) 【計画内容】理学療法的地域支援の方法演習①(古名丈人) 【準備学習の内容】前回までの復習。				A、B	
	第10回	【テーマ】地域包括ケアシステム下の理学療法実践(4) 【計画内容】理学療法的地域支援の方法演習②(古名丈人) 【準備学習の内容】前回までの復習。				A、B	
	第11回	【テーマ】地域や集団を対象とする保健活動のための実践と技術(1) 【計画内容】地域や集団を対象とする保健活動について学びます。また、関連する文献を読み、議論を行います。テーマを設定してプレゼンテーションの準備を行っていただきます。(上田泉) 【準備学習の内容】シラバスを読んでおくこと。保健師活動に関連する文献を読んでおくこと。				A、B	
	第12回	【テーマ】地域や集団を対象とする保健活動のための実践と技術(2) 【計画内容】設定したテーマに基づいてプレゼンテーションをしていただきます。プレゼンテーションの結果を基に討論を行います。(上田泉) 【準備学習の内容】講義時に指定した資料を読んでおくこと。				A、B	
	第13回	【テーマ】地域健康課題に対する政策形成過程に必要な実践と技術(1) 【計画内容】地域の健康課題に対する政策形成過程に必要な活動について学びます。また、関連する文献を読み、議論を行います。テーマを設定してプレゼンテーションの準備を行っていただきます。(上田泉) 【準備学習の内容】講義時に指定した資料を読んでおくこと。				A、B	
	第14回	【テーマ】地域健康課題に対する政策形成過程に必要な実践と技術(2) 【計画内容】設定したテーマに基づいてプレゼンテーションをしていただきます。プレゼンテーションの結果を基に討論を行います。(上田泉) 【準備学習の内容】講義時に指定した資料を読んでおくこと。				A、B	
	第15回	【テーマ】これまでの保健師活動のまとめと振り返り 【計画内容】これまでの内容を振り返り、議論を行います。設定したテーマに基づきプレゼンテーションを行っていただきます。プレゼンテーションの結果を基に討論を行います。(上田泉) 【準備学習の内容】これまでの資料を見直しておく。				A、B	
テキスト	講義時に説明する						
参考書	講義時に説明する						
成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分		60%		40%		
補							
質問への対応	E-Mailまたは授業後に対応します。メールでの問い合わせには必ず自分の所属と名前を入れること。 古名丈人 E-Mail: furuna@sapmed.ac.jp(理学療法士・理学療法 講義の担当) 上田泉 E-Mail: iueda@sapmed.ac.jp(保健師・保健活動 講義の担当) 坂上真理 E-Mail: todo@sapmed.ac.jp(作業療法士・作業療法 講義の担当)						
資格							
その他	自身の実践する上での視点、価値観、考え方を振り返り、チームで連携する上で必要なことは何かを意識して議論してください。課題等に対するフィードバックは、随時、授業内において行います。						

科目名	健康科学特論			授業形態	講義	単位数	2
教員名	佐々木 浩子						
授業の目的	ねらい	現在実施されている健康施策である「健康日本21」(第2次)は、多くの研究を元にした科学的根拠に基づき提案されたものである。これを踏まえ、本講義では、科学的根拠となり得る知見を得るための手法の一つである疫学の基礎を学ぶ。また、ヒトの生体機能測定の方法を学び、その評価についても学ぶ。さらに、健康の定義として考えられている身体的、精神的、社会的な健康とそれらに関連について考察する。具体的には、論文や専門書の講読および実際の生体機能の測定などを行い、科学的な分析能力や実践力を養うことを目指す。論文の講読には、より専門的かつ最新の研究に触れることが望ましく、英語論文も含む。					
	到達目標	(1)研究手法の基礎を理解する。 (2)ヒトの生体機能の測定及び評価を理解する。 (3)身体的健康、精神的健康及び社会的健康の関連について理解し、考察することができる。					
授業の計画	第1回	【テーマ】オリエンテーション 【計画内容】本講義の流れや概要について説明します。また、健康をめぐる現状と様々な課題について考えます。 【準備学習の内容】シラバスを読んでおくこと。	A				
	第2回	【テーマ】疫学の基礎 【計画内容】基礎的な研究手法として記述疫学、分析疫学について学びます。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B				
	第3回	【テーマ】質問紙調査の手法 【計画内容】質問紙調査の基礎について学びます。また、測定結果を元に考察します。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第4回	【テーマ】現代の健康課題 【計画内容】現代の健康課題に関連する論文を購読し、それらの問題について議論を行います。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第5回	【テーマ】加齢に伴う生体機能の低下(1) 【計画内容】筋力などの側面から加齢に伴う生体機能の低下について理解し、考察していきます。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第6回	【テーマ】加齢に伴う生体機能の低下(2) 【計画内容】呼吸器や循環器の機能などの側面から加齢に伴う生体機能の低下について理解し、考察していきます。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第7回	【テーマ】論文紹介および購読(1) 【計画内容】加齢に伴う生体機能の低下に関する論文を購読し、議論を行います。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第8回	【テーマ】論文紹介および購読(2) 【計画内容】加齢に伴う生体機能の低下に関する論文を購読し、議論を行います。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第9回	【テーマ】生体機能測定および検証(1) 【計画内容】生体機能測定として、身体形態計測、体力測定などの方法を学びます。また、測定結果を元に考察します。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第10回	【テーマ】生体機能測定および検証(2) 【計画内容】生体機能測定として、生理的指標測定の方法を学びます。また、測定結果を元に考察します。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第11回	【テーマ】QOL把握の測定方法 【計画内容】Quality of Life(QOL)に関連する測定方法を学びます。また、測定結果を元に考察します。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第12回	【テーマ】論文紹介および購読(3) 【計画内容】QOLに関連する論文を購読し、議論を行います。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第13回	【テーマ】論文紹介および購読(4) 【計画内容】メンタルヘルスやソーシャルネットワークなどに関連する論文を購読し、議論を行います。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第14回	【テーマ】論文紹介および購読(5) 【計画内容】健康科学に関連する論文を購読し、議論を行います。 【準備学習の内容】初回講義時に指定した資料を読んでくること。	A、B、F				
	第15回	【テーマ】まとめと振り返り 【計画内容】これまでの内容を振り返り、議論を行います。健康科学に関する研究テーマを設定して、プレゼンテーションを行っていただきます。 【準備学習の内容】これまでの資料を見直しておく。	A、F				
テキスト	主としてプリントを使用します						
参考書	JR.Morrow Jr.etc.2005年、『Measurement And Evaluation In Human Performance third edition』、Human Kinetics、9780736055406 Claude Bouchard etc.2006年、『Physical Activity And Health』、Human Kinetics.9780736050920 田中喜代次編、2012年、『エクササイズ科学』、文光堂、9784830651779						
成績評価の方法	筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分 補足		60% 課題への取り組み・発表		40% 参加意欲・発言の積極性		
質問への対応	E-Mail:hiros22@hokusho-u.ac.jp/メールでの問い合わせには必ず自分の所属と名前を入れること。						
資格							
その他	論文購読は英文が主となります。論文購読を含み、事前準備には十分時間をかけてください。事前準備した内容を毎回報告してもらいます。受講者の研究領域、理解到達度によって内容を変更する場合があります。						

科目名	保健医学特論				授業形態	講義	単位数	2
教員名	大宮司 信							
授業の目的	ねらい	身体・精神の保健のために何が問題となるかをあきらかにし、またそれをどう維持・発展させていくかを考える事は、いつの時代にあっても、そしてもちろん現代にあっても、人間が健康に生きるための重要課題である。本科目では、特に現代にあつてこの課題に関係する成書を取り上げて、その内容を理解し、討論することを通じて、上記の課題を考えていく。						
	到達目標	(1)現代の医学・医療の基本的な構造について説明できる。 (2)国民皆保険制度について説明でき、諸外国との相違を指摘できる。 (3)現代の日本の医療の問題点につき指摘できる。						
授業の計画	第1回	【テーマ】 オリエンテーション、日本の医療費 【計画内容】 国民皆保険制度について。 【準備学習の内容】 指定教科書第1章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第2回	【テーマ】 医療費 【計画内容】 国家予算に定める医療費問題、身近な医療費について。 【準備学習の内容】 指定教科書第2章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第3回	【テーマ】 高齢者医療 【計画内容】 高齢者医療の特徴と問題点。 【準備学習の内容】 指定教科書第3章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第4回	【テーマ】 終末期医療 【計画内容】 緩和ケア・臨死にまつわる諸問題。 【準備学習の内容】 指定教科書第3章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第5回	【テーマ】 がん 【計画内容】 がんの疫学・治療に関する問題。 【準備学習の内容】 指定教科書第4章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第6回	【テーマ】 生活習慣病 【計画内容】 生活習慣病・メタボリックシンドローム・喫煙と健康などについて。 【準備学習の内容】 指定教科書第4章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第7回	【テーマ】 精神疾患 【計画内容】 神経症や鬱病、自殺などをめぐる諸問題と現代日本の精神的状況について。 【準備学習の内容】 指定教科書第5章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第8回	【テーマ】 出産 【計画内容】 出産・少子化・妊産婦検診について。 【準備学習の内容】 指定教科書第6章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第9回	【テーマ】 育児 【計画内容】 子育て・母親の孤立・幼児虐待について。 【準備学習の内容】 指定教科書第6章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第10回	【テーマ】 医療者の育成(1) 【計画内容】 医師の教育、地方の医師不足問題、地域医療の危機。 【準備学習の内容】 指定教科書第7章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第11回	【テーマ】 医療者の育成(2) 【計画内容】 看護師などの医療技術者の育成をめぐる諸問題。 【準備学習の内容】 指定教科書第7章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第12回	【テーマ】 検査(1) 【計画内容】 現代における医療の検査と諸問題。 【準備学習の内容】 指定教科書第8章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第13回	【テーマ】 検査(2) 【計画内容】 遺伝子診断などの最新検査のもたらす医療上の変化と派生する諸問題。 【準備学習の内容】 指定教科書第8章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第14回	【テーマ】 くすり(1) 【計画内容】 薬物療法の発展と、薬物乱用、副作用などの諸問題。 【準備学習の内容】 指定教科書第9章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
	第15回	【テーマ】 くすり(2) 【計画内容】 創薬と臨床治験の諸問題。 【準備学習の内容】 指定教科書第9章をあらかじめ読んでおくこと。					A、F、I	
テキスト	読売新聞医療情報部、『数字でみるニッポンの医療』、講談社、4062879670							
参考書	講義時に説明します							
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他	
	配分			40%		60%		
補足				レポート				
質問への対応	講義開始時に説明します。							
資格								
その他	各項目をまとめてもらうレポートとそれに関する討論が中心になります。なお履修生諸君の学部での履修内容等によって、講義内容・教科書等を変える可能性があります。詳細はオリエンテーションにてお話しします。							

科目名	基礎心理学特論			授業形態	講義	単位数	2
教員名	田辺 毅彦						
授業の目的	ねらい	現代における児童や高齢者の障害や疾病による心身の問題について検討し、それに関わる心理学的問題に注目する。そして、その治療や介護の際の心理学的技術について学び、今後のケアの在り方について検討する。具体的には、児童の発達障害やそれに伴う、周囲からの虐待やいじめによる心身症やPTSD(心的外傷後障害)の発症やそれに対する対処、認知症高齢者の記憶障害やBPSD(行動心理症状)の問題とそれに対する対処などについて基礎心理学的な視点から考察することを目的とする。					
	到達目標	(1)児童の発達障害における心理学的な特徴について理解する。 (2)児童の発達障害に伴う、周囲からの虐待やいじめ等による心身症やPTSDの発症やそれに対する対処について理解する。 (3)老年期の心理的变化と精神障害に関する知識を身につける。 (4)認知症の心理学的特徴とそのケアについて学び、認知症の人への対応について理解する。 (5)高齢者の死と心理的援助について理解し、看取りについて考察する。					
授業の計画	第1回	【テーマ】 ガイダンス-基礎心理学特論 【計画内容】 現代における児童および高齢者の心理的問題とケアに関する概要。 【準備学習の内容】 新聞やTVなどに取り上げられている児童および高齢者問題、介護施設等の問題に注目する。					A
	第2回	【テーマ】 児童の発達障害における心理学的特徴 【計画内容】 発達障害の特徴を知り、その心理学的な対処について考察を行う。 【準備学習の内容】 発達障害に関するさまざまな問題について関心を持ち、現状を知る。					A
	第3回	【テーマ】 発達障害に伴う、虐待・いじめによる心身症やPTSD 【計画内容】 発達障害に対して、家庭や学校で生じている、虐待・いじめによる心身症やPTSDについて理解し、その対処について考察する。 【準備学習の内容】 発達障害に対して、家庭や学校で生じている、虐待・いじめによる心身症やPTSDについての現状について知る。					A、G
	第4回	【テーマ】 青年期の心身トラブル 【計画内容】 青年期に特有の心身トラブルについて知り、その対処法について考察する。 【準備学習の内容】 青年期における心身トラブルの現状について情報収集する。					A、H
	第5回	【テーマ】 加齢と記憶機能の特徴 【計画内容】 記憶システムの特徴と記憶の形態について理解する。 【準備学習の内容】 家族や施設などで生活する身近な中高年者の日常生活における記憶の特徴に注目し、一般的な記憶システムについても確認する。					A
	第6回	【テーマ】 知能の検査と加齢による影響 【計画内容】 知能検査の仕組みと加齢による一般的な影響について学ぶ。 【準備学習の内容】 身近な中高年者の日常におけるさまざまな機器に対する扱いの特徴に注目し、その問題点について情報収集する。					A
	第7回	【テーマ】 老年期の適応 【計画内容】 老年期における環境移行や環境適応など、特に施設入居の問題を考える。 【準備学習の内容】 家族や施設などで生活する身近な中高年者の日常における住居移動等やそれに伴う認知能力低下の問題に注目する。					A
	第8回	【テーマ】 老年期の対人関係と社会生活-ボランティア活動と超高齢者の生き方 【計画内容】 中高年期のボランティア活動実態、100歳以上の超高齢者の心理的特徴について学ぶ。 【準備学習の内容】 超高齢者に関するさまざまな話題(問題と可能性)に注目する。					A、G
	第9回	【テーマ】 中高年期の精神的健康-心理的ストレスとうつ病 【計画内容】 中高年期の精神病、ストレスとうつ病の現状と治療について学ぶ。 【準備学習の内容】 高齢者のうつ病事例やその特徴について注目する。					A、G
	第10回	【テーマ】 認知症とケア(1) 認知症の特徴 【計画内容】 さまざまな認知症、認知症治療の現状について確認して、今後の介護の課題を考える。 【準備学習の内容】 認知症に関するさまざまな話題に注目する。					A
	第11回	【テーマ】 認知症とケア(2) 認知症の人の生活と家族 【計画内容】 認知症の人に対する対応、当事者や家族会の活動について学ぶ。 【準備学習の内容】 認知症に関するさまざまな話題に注目し、地域社会における問題について検討する。					A、G
	第12回	【テーマ】 認知症とケア(3) 認知症ケアと介護予防 【計画内容】 薬物治療、アクティビティ、介護予防活動などの役割について学ぶ。 【準備学習の内容】 認知症ケアに関するさまざまな話題に注目する。介護保険とその利用の問題の現状について注目する。					A、G
	第13回	【テーマ】 臨死体験と死生観 【計画内容】 さまざまな臨死体験、臨死教育について学び、超高齢社会での役割について考える。 【準備学習の内容】 臨死に関するさまざまな話題に注目する。					A、K
	第14回	【テーマ】 看取りとホスピスケア 【計画内容】 ホスピスケアに関わる心理的援助の実際と問題について学ぶ。 【準備学習の内容】 看取りに関するさまざまな話題に注目する。施設や在宅看取りの可能性などに関する問題について注目する。					A、G
	第15回	【テーマ】 まとめ-児童や高齢者の心理学的問題と死に関する問題 【計画内容】 児童・高齢者の心理学的問題、臨死問題の将来的な課題について学ぶ。 【準備学習の内容】 これまでの若者から高齢者に至る各世代の心理学的問題について整理を行う。					A
テキスト	プリントを使用します						
参考書	田辺毅彦、2010年、『人を助ける心理学入門』、培風館						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分	10%		30%			60%
補足							
質問への対応	E-Mail: tanabe@hokusei.ac.jp						
資格							
その他	受講者の人数や興味関心に応じて、講義内容や課題の一部を変更あるいは、焦点化する可能性もある。						

科目名	人間福祉特別研究Ⅰ		授業形態	演習	単位数	2	
教員名	担当教員						
授業の目的	ねらい	修士論文作成に向けた基礎として、文献の検索方法、収集方法を知り、修士論文に必要な文献リストを作成する。自分の研究領域および関連領域の学術論文を幅広く読み、明らかになっていること、なっていないことを整理する力、批判的に読む力をつける。次に、先行研究から自分の問題意識を明確にし、研究テーマの絞り込みと問題の背景を整理する。さらに、どのような研究方法が適切か、その具体的方法について検討し、研究方法を決める。また、学術論文の講読を通して、論文の構成、必要な内容、スタイル等について理解し、自らの論文構成のイメージをつける。					
	到達目標	(1)さまざまなデータベースを用いて関連する先行研究を検索・収集でき、文献リストが作成できる。 (2)先行研究を批判的に読み、何が明らかになっているのか、残された課題は何か、を整理できる。 (3)先行研究から自らの問題意識を明確にし、研究テーマを絞り定める。 (4)問題の背景について調べ、自らの問題意識につなげられる。 (5)研究テーマに適した研究方法を選定し、具体的な方法を考えられる。					
授業の計画	【計画内容】 序盤 1)ガイダンス:修士論文作成のための手順、ポイントを概説し、そのために何を知るべきか、何をすべきかについて説明する。 2)文献検索と収集:データベースでの文献検索方法、本学のレファレンスサービスの利用方法について概説し、必要な文献を実際に入手する。 3)文献リストの作成:検索した文献の要約またはタイトルから、自分の研究テーマに関係すると思われる文献をリストアップし、適切な表記で文献リストを作成する。 中盤 4)先行研究レビュー:学術論文を熟読し、目的、方法、結果、結論を整理し、明らかになったこと、残された課題は何かをまとめ、発表する。論文の構成、必要な内容、スタイル等について理解する。 5)問題意識の明確化と研究テーマの絞り込み:先行研究を整理し、問題意識を明確化し、研究テーマを絞り込む。 6)研究テーマに関する問題の背景の明確化:問題の背景は何か、それが自分の問題意識にどうつながるのかを整理する。 7)研究目的の明確化:先行研究レビューから得られた残された課題に、自分の問題意識を照合し、研究目的を明確にする。 終盤 8)研究方法の検討:研究目的に適した研究方法について、データの収集方法、分析の枠組みを含めて、具体的な方法を検討する。 9)ロードマップの作成:研究目的と研究方法が合致しているか確認し、自らの修士論文の構成イメージをつけるとともに、修士論文作成のロードマップを作成する。 【準備学習の内容】 説明事項について各自確認しておくこと。					B	
テキスト	講義で提示またはプリントを配付します						
参考書	必要に応じて授業で提示します						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			80%		20%	
補足							
質問への対応	各指導教員から指示をします。						
資格							
その他	授業(指導)日は、修士論文指導担当者が学生と日程調整します。課題に対しては各講義のなかで内容についての検討を行います。						

科目名	人間福祉特別研究Ⅱ		授業形態	演習	単位数	2	
教員名	担当教員						
授業の目的	ねらい	修士論文作成に向けた第2ステップとして、前学期の「人間福祉特別研究Ⅰ」で進めた基礎的段階を踏まえて、具体的な研究計画を立案する。問題意識と研究目的の明確化、研究の意義、仮説の設定、データの収集方法、分析の枠組み、予測される結果、先行研究との異同等を含め、具体的に立案する。立案した計画を研究計画発表会で発表し、助言を得ながら必要な修正を行う。その上で、データ収集のための質問紙作成やインタビュー等質的調査の方法と内容、調査依頼、倫理的手続き等について検討し、実施に向けた準備を行う。					
	到達目標	(1)問題意識と研究目的を明確にし、研究方法を具体的に検討し、研究計画を具体的に立案できる。 (2)研究計画発表会で計画を発表し、助言を得ながら必要な修正が加えられる。 (3)データ収集のために必要な準備が具体的に進められる。					
授業の計画	【計画内容】	<p>序盤：研究計画の立案 各自の研究テーマに沿って、前学期に検討した問題意識と研究目的の明確化を再考し、研究の意義、仮説の設定、データの収集方法、分析の枠組み、予測される結果、先行研究との異同等を含め、具体的に立案する。</p> <p>中盤：研究計画発表会 研究計画発表会で立案した研究計画を発表し、研究を進めるに当たって研究目的は明確か、研究方法は適切か、計画は具体的で実現可能か、先行研究レビューが十分されているか、などについて助言をもらう。それによって計画に必要な修正を加える。</p> <p>終盤：データ収集のための準備 量的調査または質的調査を行うに当たり、データ収集のための質問紙作成やインタビュー等の方法と内容、調査依頼、倫理的手続き等について検討し、実施に向けた準備を行う。</p>					B
	【準備学習の内容】	授業の時に提示する課題に取り組むこと。					
テキスト	授業時に説明します						
参考書	授業時に説明します						
成績評価の方法		筆記試験	実技試験	課題評価	作品評価	受講態度	その他
	配分			80%		20%	
	補足			研究計画と準備			
質問への対応	各指導教員から指示をします。						
資格							
その他	授業の日程は学生と調整して決めます。 課題については講義のなかで内容の検討を行います。						

講義要綱
SYLLABUS
北翔大学大学院

2019年4月 発行
北翔大学・北翔大学短期大学部
〒069-8511 江別市文京台23番地
TEL (011) 386-8011
FAX (011) 387-1542

